目次

レポートコマンドの挿入 1
レポート コマンドの挿入: イントロダクション 1
分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入 1
矢印を全て表示 3
表示ウィンドウ 3
ファイル メニュー 4
測定寸法情報ボックス挿入 13
表示オプション 16
グラフィックス オプション 17
位置の軸線 19
位置軸 21
情報削除 23
DIMINFOコマンド 23
[点データ]ボックスの挿入 24
情報削除 28
POINTINFO コマンド 28
グラフィックス オプション 29
プログラマーのコメント挿入 31
オペレーター 33
レポート 34
記述 35
入力 36

はい / いいえ.....38
測定値.....41
ﾚﾎﾟｰﾄの表示.....42
自動的に実行を継続.....42
全画面表示.....43
メディアのインポート.....44
メディアの削除.....46
コメント テキスト.....47
ASCII文字の挿入.....47
測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。.....47
外部オブジェクトの挿入.....52
印刷コマンドの挿入.....52
書式供給コマンドの挿入.....58
ビューセットの利用.....59
書式コマンドの挿入.....60
スクリーン キャプチャの挿入.....64

レポートコマンドの挿入

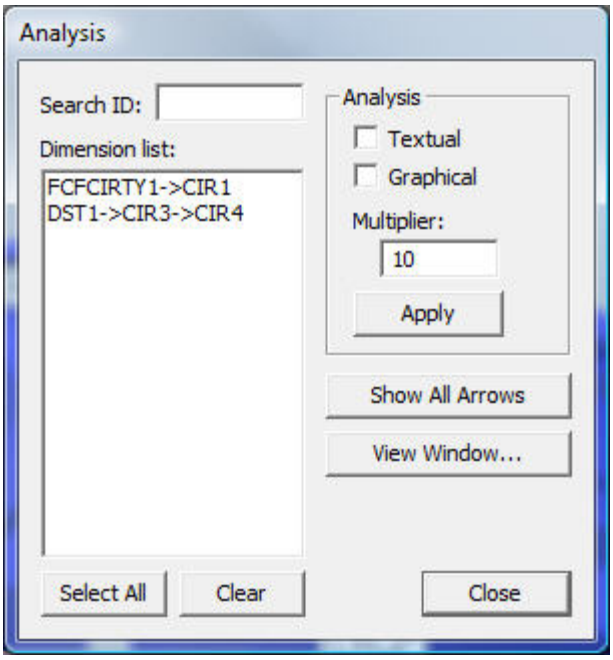
レポート コマンドの挿入: イントロダクション

PC-DMISでは、編集ウィンドウに様々なコマンドの種類を挿入でき、それはレポートの何の情報がどのように表示することを影響できます。**挿入 | レポート コマンド | 分析**サブ・メニューから選択されたメニューオプションを挿入されたこれらのコマンドでは、プログラマに設定、表示、印刷、およびできる限りの編集ウィンドウの外観をカスタマイズできます。

次のトピックは、本章で説明されています。

- 分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入
- 測定寸法情報ボックス挿入
- 点情報ボックスの挿入
- 測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。
- プログラマーのコメントの挿入
- 外部オブジェクトの挿入
- 印刷コマンドの挿入
- 形状供給コマンドの挿入
- ビューセットの利用
- FORMコマンドの挿入
- 画面キャプチャの挿入

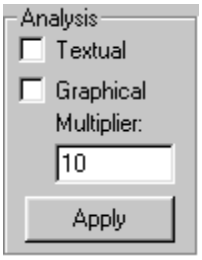
分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入



分析ダイアログ ボックス

挿入| レポートコマンド| 分析
メニューオプションは精密検査の適切なフォーマットでの次元印刷を出力する**分析** ダイアログボックスをを持ち出します。

このダイアログボックスが開いている場合は、自動的に**寸法一覧**ボックスにその要素を使って寸法を強調するためにグラフィックス表示ウィンドウで要素をクリックすることができます。



このダイアログ ボックスの[**分析**]
エリアを使用して[**測定結果の一覧**]ボックスから選択した測定結果をグラフィカルまたはテキスト読み取り形式のいずれかで表示することができます。

デフォルトでは[**分析**]エリアのチェックボックスは選択されていません。[**テキスト**]または[**グラフィカル**]チェックボックスを選択して[**適用**]をクリックするとPC-

DMISは選択した測定結果をてテキスト形式またはグラフィカルイメージのいずれかで表示します。CADデータは、全く表示されません。

フィーチャーに問題があり、その原因を決める必要がある場合、グラフィックス分析オプション、または、テキスト分析オプションのいずれかを持っていると役に立ちます。

例:
平面の平面度を検査し、許容範囲外であったと仮定します。グラフィックス分析オプションを使用すると、その平面を検査して、特定のエリアが平面性に欠けるか、または、平面全体が異常であるか、決めることができます。

グラフィカル - グラフィカルチェック ボックス が選択された場合、PC-DMISは、テキストとして閲覧できるフォーマットで測定寸法の情報を保存します。

テキスト - テキストチェック ボックスが選択された場合、PC-DMISは、テキストとして閲覧できるフォーマットで測定寸法の情報を保存します。

乗数 -
乗数ボックス内の値は、グラフィックス分析モードにおいて、矢印及び誤差域を拡大する、測定係数です。例えば、2.0が数値として入力されると、PC-DMISは、矢印のグラフィックスイメージを二倍に拡大します。このオプションは閲覧目的のみの使用であり、テキストプリントアウトのみには影響を及ぼしません。

矢印を全て表示

すべての矢印を表示
ボタンが、マース偏差に使用されるグラフィカルな分析矢印を表示します。これらのグラフィックス分析矢印は、矢印ごとに隠すことが可能です。これを行うには、CTRL + シフトキーを押し、隠す矢印上をクリックして下さい。**すべての矢印を表示**ボタンをクリックしてこの矢印を表示します。その後、グラフィックス分析矢印は表示目的用に再設定されます。

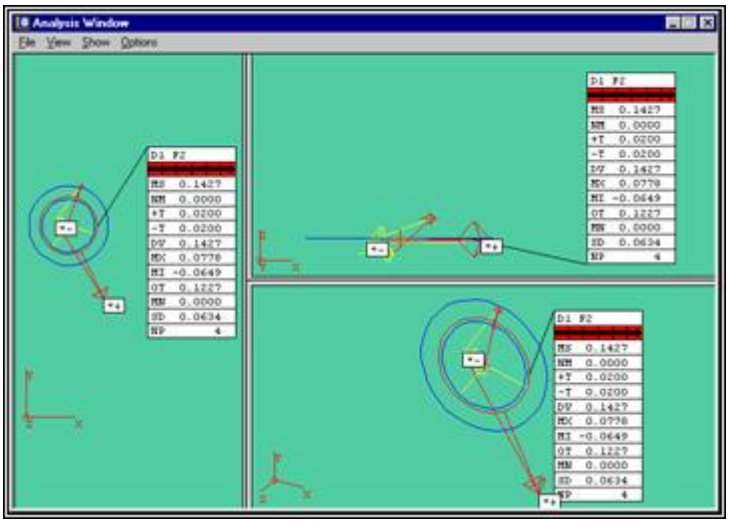
表示ウィンドウ

ウィンドウを表示ボタンで、サイズ変更可能な分析ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、最も適切なビューで表示される寸法ができます。

画像ウィンドウを効果的に使用するには:

1. 分析 ウィンドウに検査される寸法を選択します。
2. **分析**ダイアログボックスで、**乗数**ボックスに、値を入力します。
3. **ウィンドウを表示** ボタンを押します。PC-DMISは分析ウィンドウを表示します。

メニュー
バーを用いると、分析ウィンドウにおいて、グラフィックス画像を変更し、その時点でのグラフィックス
スクリーンをキャプチャーし、または、選択された測定寸法の色付けを編集することができます。



分析ウィンドウ

分析ウィンドウ上のメニュー バーには、以下のメニューがあります:

- ファイル
- ビュー
- 表示
- オプション

分析ウィンドウでのグラフィックス分析の初期画像を決めるために、PC-DMISは、スキャン画像の輪郭寸法用のスキャン切断面ベクトルか、または、他の寸法用のその時点での作業平面か、のいずれかを使用します。この画像は、後に変更が可能です。

ファイル メニュー

分析ウィンドウ **のファイル**
メニューはグラフィックス分析ウィンドウの内容を印刷用のプリンタに直接に発送します。

*分析ウィンドウ***ビュー**
メニューは選択された寸法のグラフィックス表示を一時的に変更できます。画像を回転、サイズ調整、または、変更することによって、必要な測定寸法に容易にアクセスできます。

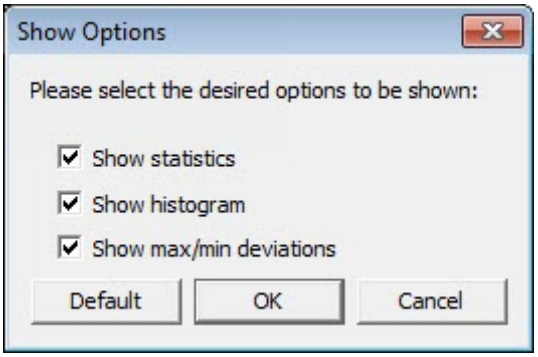
注記:
ポイントのセットのプロファイルエラーを表示している場合、このオプションは特に便利です。

[表示 | 変更] メニューオプションを使用してCAD
ファイルから新しいビューを作成できます。この機能は２D IGES
ファイルが1つの平面にパートの複数のビューを含み、グラフィックの表示ウィンドウに正しい向きでビューを関連付ける必要がある場合に便利です。ビューの操作に関する、より詳しい情報については、「CAD表示の編集」の章にある「スクリーンビューのセットアップ」を参照して下さい。

ビュー| フィットに規模拡張
メニューオプションはグラフィック表示ウィンドウ内に完全に収まるように一部の画像を描画します。画像が大きくなりすぎ、または、小さくなりすぎた時に、この機能は役に立ちます。

見る | 回転 メニュー オプションを選ぶと、**回転** ダイアログ
ボックスが表示され、それを用いると3次元のパーツ画像を回転することができます。

CAD表示の編集」章の「 図面を回転 」トピックはもっと詳細的に回転について説明します。



ダイアログ ボックス オプションを表示します

*分析ウィンドウの***表示|オプション表示**メニューのコマンドは**オプション表示**ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、分析ウィンドウ内で表示したいものを決めることができます。

分析ウィンドウの **表示 | 寸法統計を表示** を選択すると、**寸法情報を編集** ダイアログボックスが現れます。このダイアログボックスを用いると、ハイライト表示された測定寸法を詳細に渡って編集することができます。詳細については「旧式寸法の使用」章の「測定寸法ダイアログボックスの共通オプション」、及びこの章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

統計の表示 - 分析ウィンドウ内のさまざまな統計情報を表示します。**統計表示**チェックボックスが選択されない場合、(いずれの測定寸法についても）測定寸法の情報テキストは表示されません。分析ウィンドウに表示される、統計フォーマットを変更するには、**測定寸法情報編集**を参照して下さい。

ヒストグラムの表示 -
各ポイントの偏差のヒストグラムを表示します。ヒストグラムを解析ウィンドウ内の新しい場所に移動することができます。

分析ウィンドウ内の新しい位置に移動するには:

1. ご希望の柱状グラフをクリックして下さい。
2. ご希望の位置に、カーソルをドラッグして下さい。
3. マウスボタンをリリースして下さい。

最大 / 最小偏差を表示 - 正負記号で示された最大と最小の偏差を表示します。

オプション メニュー

分析ウィンドウの **オプション**メニューを用いると、その時点でのグラフィックス画像を今後の使用のためにキャプチャーすることができます。これを用いるとまた、**色の編集** ダイアログボックスにもアクセスでき、分析ウィンドウのサイズ変更を行うこともできます。

分析画像コマンド作成

分析ウィンドウの「**オプション|分析ビューコマンドを作成**」メニューオプションは、分析ウィンドウに使用される寸法、ビューおよび回転を使用し、編集ウィンドウでANALYSISVIEWコマンドにその情報を挿入します。PC-DMISがANALYSISVIEWコマンドを実行すると、次のようになります:

- PC- DMISは、一時的に分析ウィンドウを開き、その内容の画面をキャプチャします。
- PC-DMISは、[レポート]ウィンドウで、この画面のキャプチャを表示します。それは、自動的にレポートウィンドウに合わせて画面キャプチャのサイズを変更します。これは、レポートウィンドウのTextReportObjectに挿入されます。
  TextReportオブジェクトの詳細については、「測定結果のレポート：概要」の章「TextReportObject」トピックを参照してください。それはAnalysisWindowオブジェクトには影響しません。

このオプション用の編集ウィンドウ のコマンドラインは、以下のようになります:
ANALYSISVIEW/D1,D2,D3,,

D1,D2,D3 = 表示される寸法の一覧。

使用可能なディメンション パラメータの数に、限度はありません。

編集ウィンドウに「ANALYSISVIEW」と入力しても、ANALYSISVIEWコマンドが作成されます。分析用に選択された測定寸法はいずれも、このコマンド用のパラメータになります。

レポート用にグラフィックス画像保存

別の画面がキャプチャされるまで、あるいは測定ルーチンが閉じるまでクリップボードの画像は残ります。

*分析ウィンドウの***オプション | レポート用にグラフィックス画像保存** メニューオプションを選ぶと、分析ウィンドウにある画像が獲得され、DISPLAY/METAFILEコマンド内に保存されます。実行時には、これが今度は、キャプチャー画像をインスペクションレポート内に送付します。

PC-DMISには、キャプチャーされた画像を編集、または、フォーマットする能力はありません。グラフィックス画像は、カーソルの所在位置で表示されます。

このDISPLAY/METAFILE コマンドはDISPLAY/METAFILE コマンドと異なり、以下の方法で、メインメニューから生成されます：

- これは、そのメニュー項目が選択されると、グラフィックス表示ウィンドウ内ではなく、分析ウィンドウ内の画像のスクリーン キャプチャーを行います。

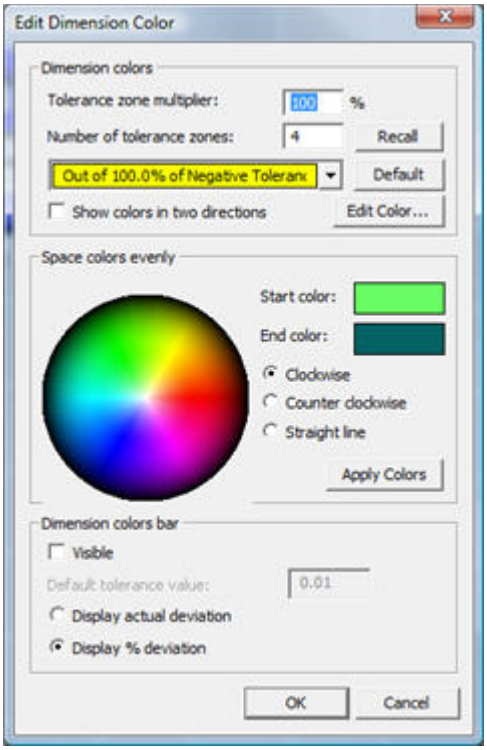
- 実行中に画面のキャプチャが奪還されない、それは静的なイメージです。

実行中に、自動的に更新するスクリーン
キャプチャーの作成については、「分析画像コマンドの作成」を参照して下さい。

DISPLAY/METAFILEコマンドに関する、より詳しい説明については、「編集ウィンドウの使用」の項にある「画面キャプチャ」を参照して下さい。

寸法色付け編集

*分析ウィンドウの***オプション | 測定寸法色の編集** メニュー
オプションを選ぶと、特定された公差範囲用に色付けを設定することができます。このオプションを選ぶと、**測定寸法色の編集**ダイアログ ボックスが表示されます。

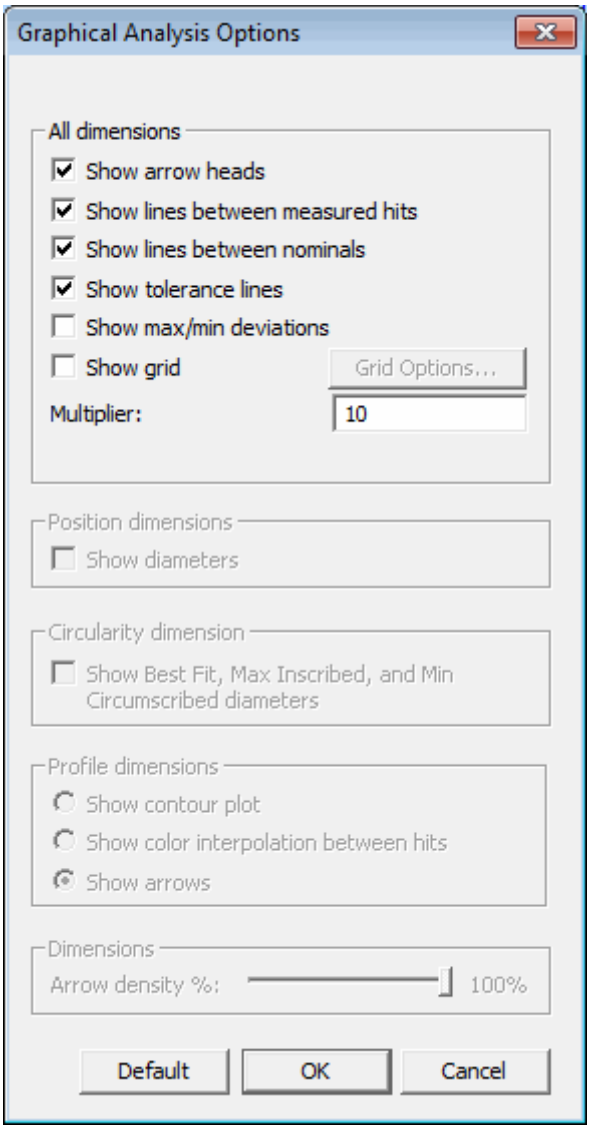


ディメンション色編集ダイアログ ボックス

このダイアログ
ボックスを用いて、公差用の測定寸法色を変更する方法に関する手順については、「CAD表示オプションの編集」の章にある「寸法色の編集」の項目を参照して下さい。

測定寸法オプション

この**グラフィックス 分析オプション**ダイアログ
ボックスを用いると、分析ウィンドウ内で表示される情報を決めることができます。



測定寸法分析オプション

このオプションにアクセスするには

1. **挿入 | レポート コマンド | 分析** メニュー オプションを選択して下さい。[**分析**] ダイアログボックスが表示されます。

2. **寸法一覧**ボックスから寸法を選択します。

3. [**ウィンドウを表示**] ボタンをクリックします。分析ウィンドウが表示されます。

4. [分析] ウィンドウより [**オプション | 寸法のオプション**] を選択します。[**測定結果の分析オプション**] ダイアログボックスが開きます。ほとんどのオプションは [**分析**] ダイアログ

ボックスで何か測定結果を選択しない限り利用可能になりません。選択したものに基づき、関連オプションが利用可能になります。

以下のオプションがこのダイアログ ボックスに利用可能です:

[矢印を表示] チェックボックス
[矢印を表示] チェックボックスは偏差の線の矢印のオン/オフを切り替えます。

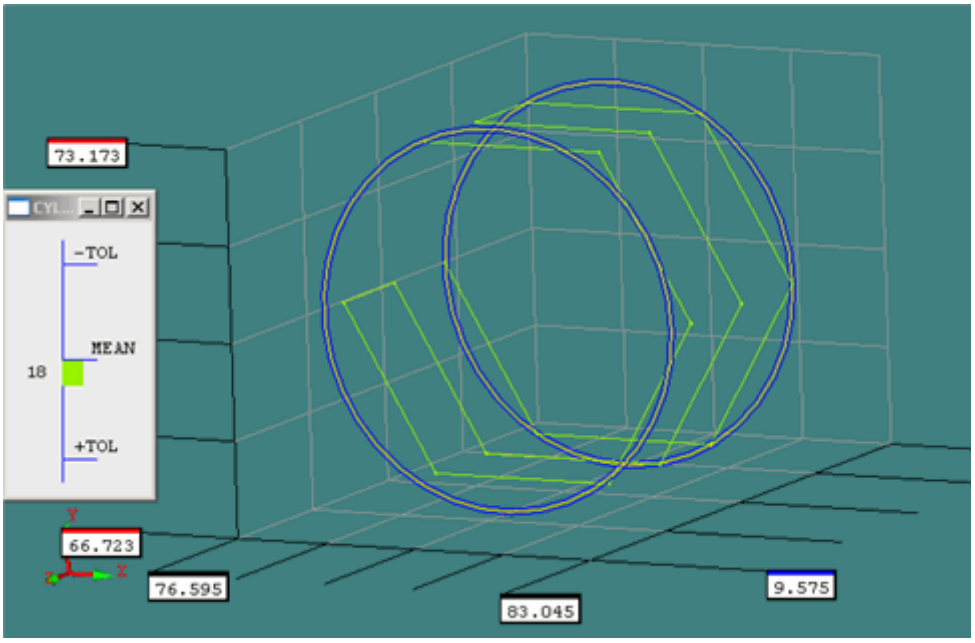
[測定された取込点間の線を表示] チェックボックス
[測定された取込点間の線を表示]
チェックボックスは測定された取込点間の線の表示/非表示を切り替えます。

公称値間に線を表示 チェックボックス
公称値間に線を表示 チェックボックスは公称値間に線を切り替えます。

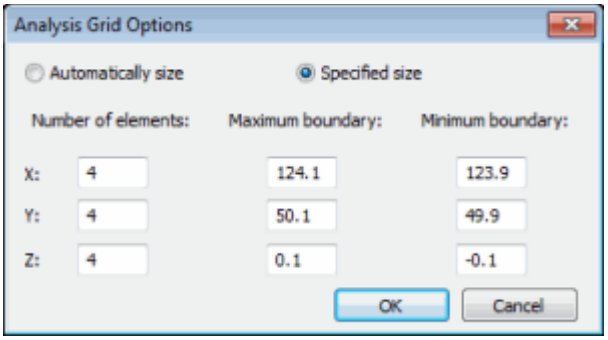
公差線を表示チェックボックス
公差線を表示チェックボックスは、寸法公差の表示を切り替えます。

最大 / 最小偏差を表示 チェックボックス
最大 / 最小偏差を表示 チェックボックスは最大値と最小偏差は' *+ ' または' *- '
記号で示されるようになります。

グリッドの表示 チェックボックス
グリッドの表示チェックボックスで、グラフィカルな分析の*3D*
*グリッド状のバックドロップ*を表示できます。グリッドを有効にするのは回転した項目の表示に助けます。それも**グリッドオプション** ボタンを有効にします。**グリッドオプション**
をクリックしてグリッドを定義することに使用する**分析グリッドオプション**
ダイアログボックスを開きます。



格子が作動可能な状態での、グラフィックス分析のサンプル



分析グリッドのオプションダイアログ ボックス

このダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります:

自動的サイズ調整 -
これは、X、Y、及び、Zフィールドで特定されたオブジェクトの数に基づき、格子を自動的にサイズ調整します。

指定されたサイズ - これは**最大 境界** と**最小 境界**ボックスを有効にして、最大値と最小値の境界の指定サイズを入力できます。

図形要素数 - これは、分析格子上に描写される、図形要素部分の数を定義します。

最大境界 - これは、分析格子座標の上限を定義します。

最小境界 - これは、分析格子座標の下限を定義します。

グリッドのオプション ボタン
グリッドのオプション ボタンはグリッドオプションダイアログ ボックスを表示します。

倍率 ボックス
倍率ボックスはグラフィカル分析モードの偏差の矢印および公差領域を入力する倍率を入力できます。2.0の値が入力されている場合は、PC - DMISは各要素ヒットの2回の計算偏差の矢印をスケーリングします。

注記:このオプションは閲覧目的のみの使用であり、テキストプリントアウトには影響を及ぼしません。

直径を表示チェックボックス
直径を表示チェックボックスで、利用可能な位置と寸法の直径を表示します。

ベストフィット直径の表示、**最大内接径**及び**最小外接直径**チェックボックス
このチェックボックスによって、真円寸法でも引き出されるかもしれないいろいろな直径をオンまたはオフにすることができます。これらの直径はこれらの平均、円形の要素の最大と最小の偏差を表示します。

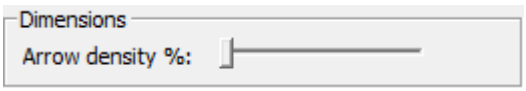
等高線プロットの表示オプション
等高線プロットの表示オプションはパッチスキャンのみに作業してプロフィール寸法に利用可能になります。等高線プロットはパッチスキャンポイントを使用してメッシュを作成して、また色が各ヒットからプロファイル偏差の関連でメッシュを覆います。

PC-DMISもグラフィックス表示ウィンドウ内のCAD
モデルの等高線プロットを表示できます。「レガシー寸法の使用方法」章の「プロファイル等高線図の表示」を参照してください。

ヒット間の色内挿表示オプション
ヒット間の色内挿表示オプションはヒット間に色を挿入できます。このオプションは、表示寸法は入手可能です。

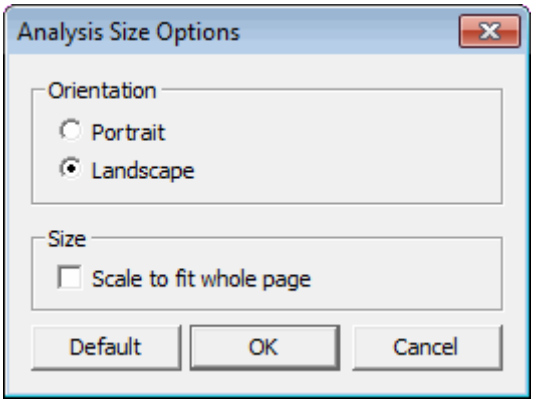
矢印表示オプション
矢印表示オプションを選ぶと、偏差線用の矢印の表示をトグル操作できます。このオプションは輪郭寸法用に利用可能です。

矢印の密度 スライダ
矢印の密度
スライダは全体のグラフィカルな解析を使用する測定ルーチンの任意の寸法に表示されたポイントの矢印の密度を変更できます。



これは**GD&T** ダイアログ ボックスの**高度な** タブの**矢印の密度**
機能性から異なります。この**高度な**
タブの設定は指定寸法を影響します。「フィーチャーコントロールフレームの使用」章の「GD&Tダイアログ ボックス - 詳細タブ」を参照してください。

サイズ オプション



分析サイズオプションダイアログ ボックス

分析サイズ オプション ダイアログ
ボックスを用いると、分析ウィンドウ内で情報がどのように表示されるか、を決めることができます。また、これらのオプションを用いると、`ANALYSISVIEW`
コマンドを設定することができ、それによって、PC-DMISが、実行中に、以下の選択されたモードのうちのひとつにおいて、スクリーンキャプチャーを行います。(「分析ビューコマンドの作成」を参照して下さい。)

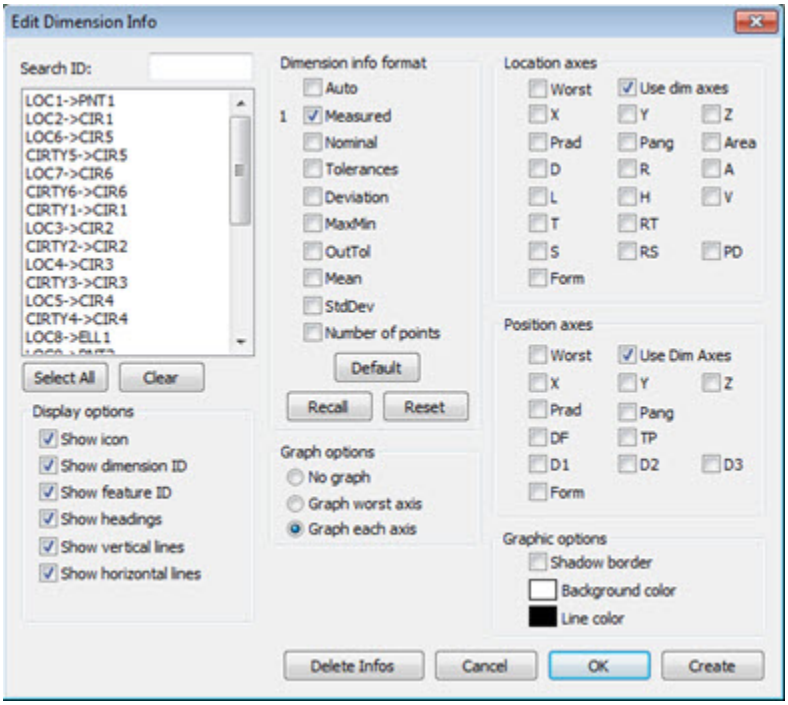
以下のオプションを選択できます：

肖像
このオプションは分析ウィンドウをサイズし、それが標準的なポートレートのページサイズと一致します。

ランドスケープ
このオプションは分析ウィンドウをサイズし、それが標準的なランドスケープのページサイズと一致します。

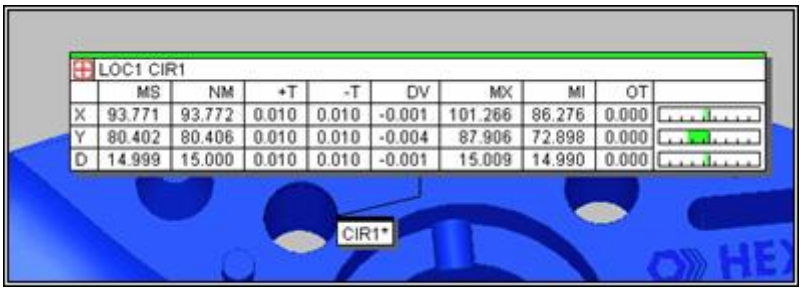
ページ全体に拡大
このチェックボックスはウィンドウをスケールして、それは全体の印刷されたページに合わせます。

測定寸法情報ボックス挿入



編集寸法情報ダイアログ ボックス

挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報 メニュー オプションを選ぶと**寸法情報編集**ダイアログボックスが現れます。このダイアログを用いると、`DIMINFO`
コマンドが作成され、このコマンドによって、グラフィック表示ウィンドウ内に、選択された測定寸法情報が表示されます。編集ウィンドウでの`DIMINFO`コマンド編集に関する情報については、「DIMINFOコマンド」を参照して下さい。



ディメンション情報ボックスのサンプル

寸法がすでにDIMINFOテキストボックスを含まれる場合、ダイアログボックス内の寸法リストがアスタリスク(*)を表示します
、DIMINFOのテキストボックスはグラフィックの表示ウィンドウにビューから隠されている場合
、それは番号記号（#）が表示されます。

```
LOC1->CIR1->*
LOC2->CIR2->*#
LOC3->CIR3
```

サンプル寸法リストが既存して隠されるDIMINFOボックスを表示します。

自動チェック ボックス
(このダイアログの**測定寸法情報フォーマット**エリアの下）は、選択された寸法のタイプに基づいて、表示に適切な測定寸法出力フォーマットを自動的に決定します。このオプションをくつがえすためには、ご希望の**測定寸法情報フォーマット**チェック
ボックス（複数可）を選択して下さい。PC-DMISは、当該チェック
ボックスの左側に数字を表示し、出力セレクションの順序を示します。これを用いて、個々のニーズを満たすよう、フォーマットの順序を変更することができます。チェック
ボックスを二度目に選択することで、容易にそのチェックを消去できます。

このダイアログボックスが開いている場合は、自動的に**寸法一覧**ボックスにその要素を使って寸法を強調するためにグラフィックス表示ウィンドウで要素をクリックすることができます。

編集寸法情報 ダイアログ
ボックスは表示される寸法情報を編集できます。以下の段落はこのダイアログボックスに利用可能なオプションを説明しています。

測定寸法情報作成ルール

[**寸法情報の編集**] ダイアログ ボックスから DIMINFO ボックスを作成する場合、[**寸法一覧**]
ボックスはカーソルの現在位置より上にある寸法のみ表示します。

テキスト ボックス
モードを用い、グラフィックス表示ウィンドウ内でボックス選択することにより、DIMINFOボックスを作る場合、PC-
DMISは、選択されたフィーチャーすべて用にDIMINFOボックスを作成するわけではありません。カーソルのその時点での位置より上にある要素のみのためにDIMINFOボックスが作成されます。

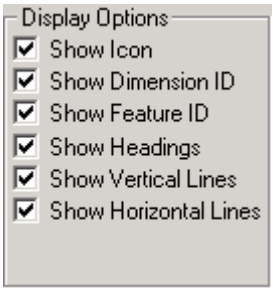
測定ルーチンが複数のビューセットを持つ場合、対応する測定寸法かそれ以下の寸法を含むビューセットにおいてのみ、DIMINFOボックスは表示されます。例えば、お手持ちの測定ルーチンに以下のコマンドがあったと想定します:

```
VIEWSET1

F1 = FEAT

VIEWSET2

VIEWSET3
```

```
D1 = DIMENSION

VIEWSET4
```

挿入点がD1の下に存在していた場合に、要素f1のDIMINFOボックスのみを追加することができます。DIMINFOボックスが作成されると、 PC-DMISはVIEWSET1と2ではなく、VIEWSET3と4でそれを表示します。

表示オプション



[**表示オプション**]エリアを用いると、グラフィックス表示ウィンドウ内で、各測定結果を表示する場合の各種様式が利用可能になります。

以下のオプションが利用可能です。

アイコン表示チェックボックス
このチェックボックスは
寸法情報ボックスのヘッド場所の適切な寸法のアイコンの表示を切り替えます。

寸法表示 IDチェックボックス

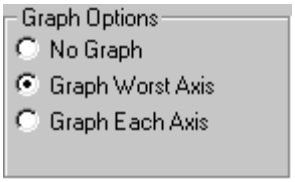
このチェックボックスはグラフィックス表示ウィンドウ内の寸法のIDを表示する能力を切り替えます。

要素IDを表示チェックボックス
このチェックボックスは寸法が測定される要素のIDを表示する能力を切り替えます。

タイトル表示チェックボックス
このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の行と列の見出しの表示を切り替えます。

垂直線表示チェックボックス
このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の列の間の縦線の表示を切り替えます。

水平線表示チェックボックス
このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の行の間の横線の表示を切り替えます。

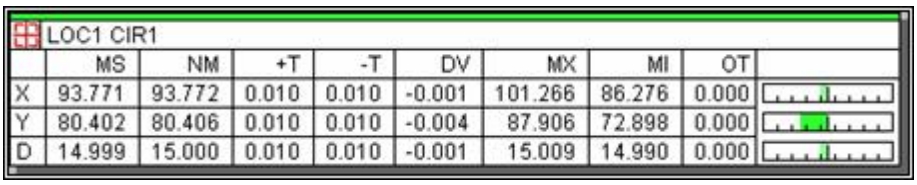


Graph オプション エリアはグラフオプションのグラフィカルが**寸法情報**
ボックス内の寸法の割合を表示します。

非グラフ - 寸法情報ボックスに、グラフを表示したくない場合は、このオプションを選択します。

最悪軸の描画 -
寸法情報ボックスの上にグラフを表示するには、このオプションを選択します。最悪測定寸法のパーセンテージのみが、グラフに表示されます。

各軸を描画 -
寸法情報ボックスに、すべての軸の寸法の割合グラフを表示するには、このオプションを選択します。

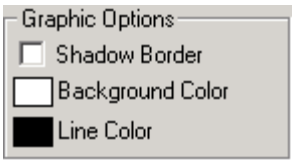


LOC1 CIR1

	MS	NM	+T	-T	DV	MX	MI	OT
X	93.771	93.772	0.010	0.010	-0.001	101.266	86.276	0.000
Y	80.402	80.406	0.010	0.010	-0.004	87.906	72.898	0.000
D	14.999	15.000	0.010	0.010	-0.001	15.009	14.990	0.000

測定結果情報ボックス

グラフィックス オプション

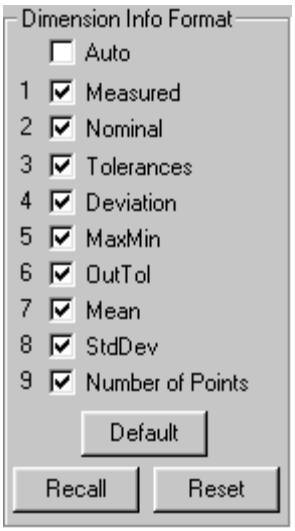


グラフィックス オプションエリア

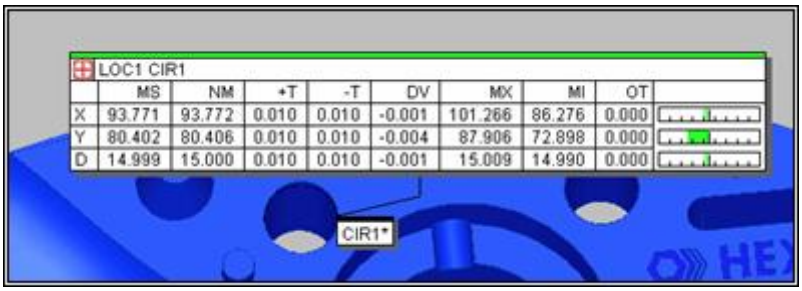
グラフィックオプションエリアは背景色と表示された現在ポイント情報ボックスを定義できます。PC-DMISがポイント情報ボックスのまわりに覆う境界を表示するかどうかを定義できます。

ポイント情報ボックスのグラフィックオプションを変更するには、このエリアから目的のオプションを選択して**作成**または**OK**をクリックします。

簡単に必要なオプションを選択して新しく作成されたポイント情報ボックスのグラフィックオプションをデフォルト値を設定でき、また**ポイント情報形式**エリアの**デフォルト**
ボタンをクリックします。



測定寸法情報フォーマットエリアのチェック
ボックスを用いると、グラフィックス表示ウィンドウ内で表示される、各寸法の情報タイプを選択することができます。測定寸法のダイアログ ボックス内から**表示**チェック
ボックスが選択された場合、PC-
DMISは、グラフィックス表示ウィンドウ内にその情報を表示します。



グラフィックの表示ウインドウに表示されている、要素 CIR1 の寸法データ

ダイアログ ボックスの [**測定結果情報**] エリアは以下のようになります：

[**自動**] チェックボックス
[**自動**] チェックボックスは以下の情報を自動的に表示します:
測定された、公称値、公差、デビエーション、最大最小、公差外

測定済みチェックボックス
このチェックボックスは実際に測定された寸法を表示します。

公称値チェックボックス
このチェックボックスは寸法の理論値を表示します。

公差チェックボックス
このチェックボックスは、公称値よりも大きいか小さいかいずれかの承認可能な公差レベルを表示します。

偏差値チェックボックス
このチェックボックスは、公称値と測定された寸法値の差を表示します。

MaxMinチェック ボックス
このチェック ボックスは、その測定寸法の最大値及び最小値を表示します。

公差範囲外チェックボックス
このチェックボックスは、測定された値が公称値および公差値からどの程度離れているかを表示します。

平均値チェックボックス
このチェックボックスはすべての寸法偏差の平均を表示します。

標準偏差チェックボックス
このチェックボックスは寸法のすべての偏差の標準偏差を表示します。

点数チェックボックス
このチェックボックスは、寸法要素の測定に使用される点数を表示します。

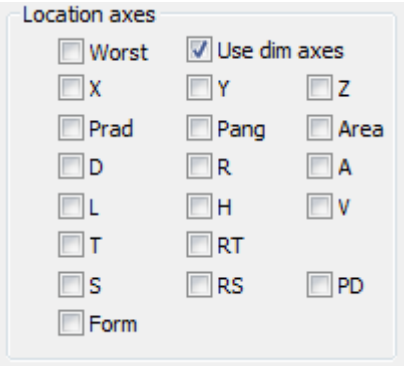
コマンドボタンは、次のとおりです:

読出し - セット・デフォルトを読み出します。

デフォルト - デフォルトとしてチェックボックスの現時点の選択を設定します。

リセット -
このボタンはこのセクションのすべてのマックされたボックスをクリアして**自動**チェックボックスを選択します。

位置の軸線



この表には、測定寸法情報を編集中に、選択可能な**位置軸線**
とその機能についての内容説明があります。

以下のオプションが利用可能です。

最悪チェックボックス
このオプションは公差状態の最悪のアウトを提供する軸を使用します。PC-DMIS は利用可能な軸 を検索して寸法の最悪ケースシナリオを提供するのを選択します。

寸法軸の使用チェックボックス
このチェックボックスは寸法のダイアログ ボックスに以前定義された軸を使用します。

Xチェックボックス
は、X 軸の値を表示します。

Yチェックボックス
は、Y 軸の値を表示します。

Zチェックボックス
は、Z 軸の値を表示します。

PRADチェックボックス
PRADは極半径を表しています。このオプションは極座標を選択します。

Pangチェックボックス
パンは極角度の略です。このオプションは極座標を選択します。

エリアチェックボックス
は選択されたプローブ要素の領域を表示します。それがDIMINFOボックスにARとして表示されます。

Dチェックボックス
直径値を表示します。

R チェックボックス
半径 (直径の半分) 値を表示します。

Aチェックボックス
(円錐の) 角度値を表示します。

Lチェックボックス
長さ (円柱、スロット、円錐および楕円向けに用いられる)を表示します。

Hチェックボックス
高さを表示します。

Vチェックボックス
角度の場所を表示します。

Tチェックボックス
　アプローチ ベクトルに沿ったエラー (曲面上の点向けの)を表示します。

RTチェックボックス
レポート ベクトルに沿った偏差を表示します。

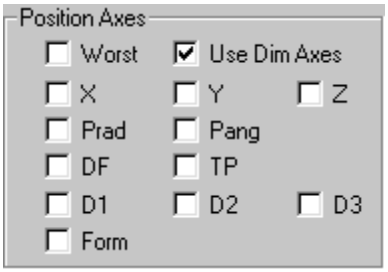
Sチェックボックス
表面ベクトルに沿った偏差を表示します。

RSチェックボックス
表面レポートベクトルに沿った偏差を表示します。

PDチェックボックス
円の直径 (ピンのベクトルに垂直)を表示します。

形状チェックボックス
は要素向けの統合された形の寸法を表示します。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「位置寸法のデフォルト軸」を参照してください。

位置軸



この表には、測定寸法情報を編集中に、選択可能な**位置軸**とその機能についての内容説明があります。

以下のオプションが利用可能です。

最悪チェックボックス
このオプションは公差状態の最悪のアウトを提供する軸を使用します。PC-DMIS は利用可能な軸 を検索して寸法の最悪ケースシナリオを提供するのを選択します。

寸法軸の使用チェックボックス
このチェックボックスは寸法のダイアログ ボックスに以前定義された軸を使用します。

Xチェックボックス
このチェックボックスはX 軸の値を表示します。

Yチェックボックス
このチェックボックスはY 軸の値を表示します。

Ｚチェックボックス
このチェックボックスはＺ軸の値を表示します。

PRADチェックボックス
PRADは極半径を表しています。このオプションは極座標を選択します。

Pangチェックボックス
パンは極角度の略です。このチェックボックスは極座標を選択します。

DFチェックボックス
このチェックボックスは要素の直径を表示します。

TPチェックボックス
このチェックボックスは位置公差およびそれに関連する寸法を表示します。

D1チェックボックス
このチェックボックスは一番目の基準要素の直径/幅を表示します。

D2チェックボックス
このチェックボックスは二番目の基準要素の直径/幅を表示します。

D3チェックボックス
このチェックボックスは三番目の基準要素の直径/幅を表示します。

形状チェックボックス
このチェックボックスは要素向けの統合された形の寸法を表示します。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「位置寸法のデフォルト軸」を参照してください。

情報削除

Delete Infos

[**情報削除**] ボタンは測定ルーチンからすべての [POINTINFO] コマンドを削除します。

DIMINFOコマンド

DIMINFOコマンドは、**測定寸法情報編集**ダイアログ ボックス (**挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報**)によって作成されます。

DIMINFO
コマンドが測定ルーチンに挿入された場合、寸法データーはグラフィックの表示ウィンドウに表示されます。DIMINFO コマンドが編集ウィンドウに変更されます。DIMINFO
コマンドのコマンドラインは以下のように読み込めます:

```
DIMINFO/Dim ID ;ICON,DIMID,FEATID,VERT,HORIZ; HEADINGS, "GRAPH
OPTION";"DIMENSION OUTPUT”, ,$
“AXES OUTPUT”
```

Dim ID = 寸法IDは表示に選択されます。

ICON - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「ICON」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、DIMINFO
が、適切なアイコンと共に、測定寸法とフィーチャーIDを表示します。

DIMID - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「DIMID」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、DIMIDが、測定寸法情報と共に、測定寸法IDを表示します。

FEATID - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「FEATID」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、DIMIDが測定寸法情報と共に、測定寸法の一番目の要素のIDを表示します。

VERT - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「VERT」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、DIMINFO が列間の縦線と共に、表示されます。

HORIZ - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「HORIZ」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、DIMINFO が行間の横線と共に、表示されます。

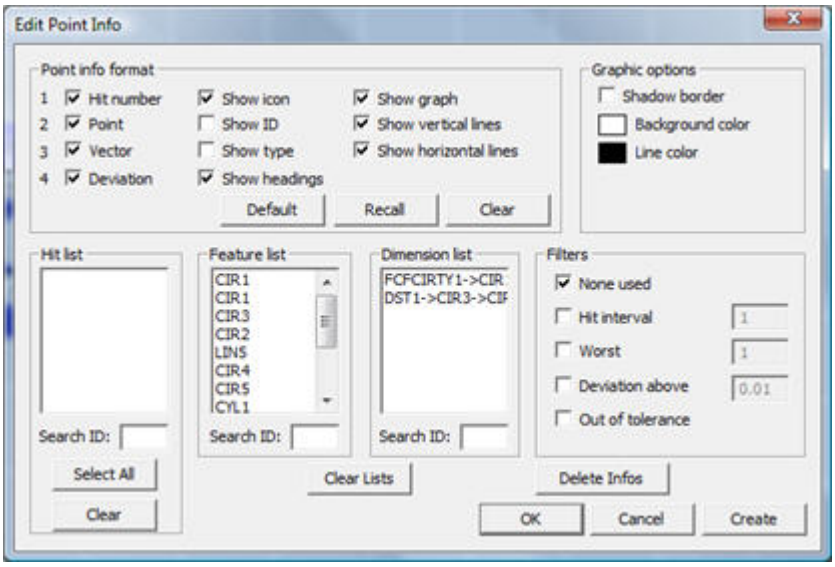
HEADINGS - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「HEADINGS」を表示する トグル ストリングです。それがオンする場合、列と行ヘッドは**寸法情報**
ボックスに表示されます。

GRAPH OPTION - グラフオプションのグラフィカルは **寸法情報**
ボックス内の寸法の割合を表示します。可能なトグル値は、GRAPH WORSTとGRAPH AXISです。当トグル
ストリングが空白を表示する場合、ボックス内に図表は表示されません。

DIMENSION OUTPUT -
寸法情報のフォーマットは選択の順序に基づいて表示されます。利用可能な出力オプションは、測定値、名目値、公差、偏差、最大最小、公差域外、中間値、標準偏差、及び、ポイント数。オプションは複製することはできません。

AXES OUTPUT - 寸法軸
のフォーマットは選択の順序に基づいて表示されます。利用可能な軸
は寸法の種類に依存して全部の場所と場所軸を含まれます。USEDIMは第1軸の位置に切り替えている場合、DIMINFOは、寸法で指定されている軸
が表示されます。WORSTがいずれかの軸線位置においてトグルされている場合、最大の公差域外値を持つ軸線が表示されます。このインプットは場所また場所寸法の寸法に利用可能です。軸は複製することはできません。

[点データ]ボックスの挿入



編集ポイント情報の ダイアログ ボックス

挿入 | レポート コマンド | ポイント情報メニュー
オプションを選ぶと**ポイント情報編集**ダイアログ
ボックスが現れます。このダイアログは、`POINTINFO`コマンドを作成し、それを用いて、グラフィックス表示ウィンドウの**ポイント情報**ボックス内に、個々のポイント情報を表示することができます。編集ウィンドウでのPOINTINFO コマンド編集に関する情報については、「`POINTINFO` コマンド」を参照して下さい。

ポイント情報を編集 ダイアログ
ボックスを使用してグラフィックス表示ウィンドウに個別のポイントの情報を表示するには：

1. メインーメニューから**ポイント情報を編集** の選択で、**ポイント情報を編集**ダイアログボックスを開きます。

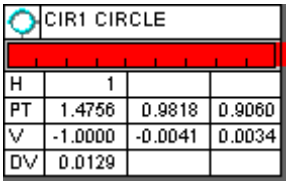
2. **要素リスト** ボックスに要素が表示され、また測定結果が**寸法リスト**ボックスに表示されます。

3. 少なくとも1つの要素または寸法を選択します。要素に関連付けられる個々のポイントは**ヒットリスト** ボックスに表示されます。

4. 表示したい **ヒットリスト**ボックスからポイントを選択します。複数の測定寸法かフィーチャーが選択された場合、それらの測定寸法かフィーチャーからのポイントすべてが、ポイント情報内に表示されます。

5. **点情報を表示** チェックボックスが選択されたのを確認します。

6. 適用するボタンをクリックして下さい。選択されたヒントの情報が**グラフィックの表示ウィンドウ内の** ポイント情報ボックスに表示されます。



ポイント情報ボックスが円要素内の一番目のヒットを表示します。

各**点情報** ボックスがヒット番号、XYZ 場所、IJK
角、また特定のヒットに関連する偏差を表示します。

形式は **寸法情報** ボックスが設定して移動される同様の方法で変更して保存して移動されます。

ダイアログ
ボックスのこの部分では、要素または測定結果の横にあるグラフィックス表示エリアに表示する、

情報のタイプを決定します。このセクションのチェックボックスは、[作成](編集時は[適用])ボタンと連動して使用されるか、表示する情報を選択または削除するには[**OK**]ボタンと連動して使用する必要があります。

ヒット数 - チェックボックスは要素の点のヒットシーケンスを表示します。

例:
円が一般的に4つのヒットを取って、その中の一つのヒットは選択された円の測定に使用された場合には、ヒットが連続して取られた場合、このオプションは番号（1〜4）で表示されます：1、2、3、または4。

ポイント - チェックボックスが選択されたヒットのX、 Y及びZ点の位置を表示します。

ベクトル - このチェックボックスは選択されたヒットのIJK角度を表示します。

偏差 - チェックボックスは、点の理論値からのずれを表示します。

- *要素に対しては*、点のずれは測定された取込点と実際の取込点の間の距離となります。
- *測定結果に対しては*、点のずれは測定結果の型に関連し、テキスト形式の測定結果分析に現れる個別の点に対するずれの表示と同じです。

アイコンを表示 -
このチェックボックスは寸法情報ボックスのヘッダ部分に要素のアイコンを表示します。

IDを表示 - このチェックボックス は特定寸法または要素のIDを表示できます。

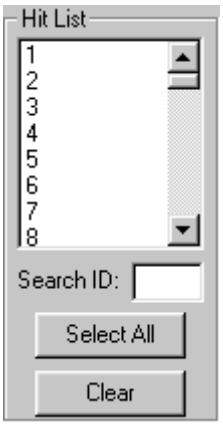
タイプを表示 - チェックボックスは表示された要素または寸法のタイプを表示できます。

見出しの表示 - このチェックボックス はポイント情報 ボックス内の行の見出しを表示できます。

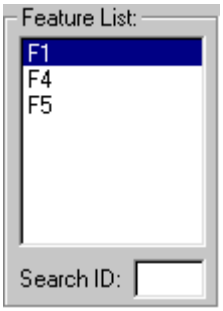
グラフを表示 -
このチェックボックスはポイント情報ボックス内の寸法の割合グラフを表示できます。

垂直線を表示 - このチェックボックスはポイント情報
ボックス内の垂直線を表示または非表示できます。

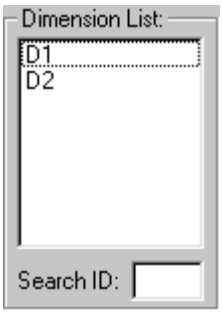
水平線を表示 -
このチェックボックスはポイント情報ボックス内の水平線を表示または非表示できます。



ヒット リスト
ボックスは特定の機能または寸法に関連付けられるすべてのヒットのリストを含まれます。単に、読みたい情報を持つヒットを選択して下さい。



要素リスト
ボックスは特定の測定ルーチンに関連付けられるすべての要素のリストを含まれます。単に、閲覧したいヒットの情報を持つ要素を選択します。要素に関連した取込点は
取込点の一覧ボックスに表示されます。



寸法リスト
ボックスは特定の測定ルーチンに関連付けられるすべての寸法のリストを含まれます。単に閲覧したいヒットの情報を持つ測定寸法を選択して下さい。

測定結果に関連した取込点は [**取込点の一覧**] ボックスに表示されます。

情報削除

[**情報削除**] ボタンは測定ルーチンからすべての [DIMINFO] コマンドを削除します。

POINTINFO コマンド

POINTINFO コマンドは、**測定寸法情報編集** ダイアログ ボックス (**挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報**)によって作成されます。

POINTINFO コマンドが測定ルーチンに挿入された場合、**ポイント情報**
ボックスはグラフィックの表示ウィンドウに表示されます。POINTINFO
コマンドが編集ウィンドウに変更されます。POINTINFO
コマンドのコマンドラインは以下のように読み込めます:

```
POINTINFO/Dim ID or Feat ID; FILTER FILTER_TYPE
FILTER_NUM;ICON,ID,TYPE,VERT,HORIZ; HEADINGS, GRAPH; ”OUTPUT FORMAT”
,$
“HIT NUMBERS”
```

寸法 ID または要素 ID - 寸法または要素のIDは表示されます。

FILTER_TYPE = トグル文字列はNONE, INTERVAL, WORST,
DEVIATION、またはOUTTOLフィルタオプションを表示します。

FILTER_NUM = フィルタオプションがINTERVAL,
WORST、またはDEVIATIONである場合には、番号フィールドは利用可能になります。

ICON - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「ICON」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、POINTINFO が、適切なアイコンと共に、測定寸法とフィーチャーIDを表示します。

ID = オフの時には空白を表示し、オンの時には「ID」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、POINTINFO が、適切なアイコンと共に、測定寸法ID、または、フィーチャーIDを表示します。

TYPE - オフの時には空白を表示し、オンの時には「TYPE」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、POINTINFO がポイント情報で要素または寸法(たとえばCIRCLE, POINT, ROUNDNESS, LOCATIONなど) を表示します。

VERT - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「VERT」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、POINTINFO が列間の縦線で表示されます。

HORIZ - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「HORIZ」を表示する トグル ストリングです。オンの時には、POINTINFO が行間の横線と共に、表示されます。

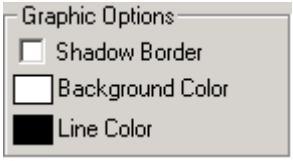
HEADINGS - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「HEADINGS」を表示する トグル ストリングです。それがオンする場合、行ヘッドは**ポイント情報** ボックスに表示されます。

GRAPH - オフの時には空白を表示し、オンの時には「GRAPH」を表示する トグル ストリングです。オフの時には、寸法の割合はグラフィカルに**点情報** ボックスに表示されます。

OUTPUT FORMAT -
寸法情報のフォーマットは選択の順序に基づいて表示されます。利用可能な出力オプションは、HIT、PT、 V、およびDEVですが、オプションは複製できません。

HIT NUMBERS - ヒット番号はこの特定 POINTINFO コマンドでコントロールされる指定番号されたヒットです。POINTINFO コマンドの使用で複数ヒットは表示されます。ヒット番号の各フィールドはトグル文字列です。ヒットがONにされる場合、番号の位置の文字列はヒット数は（1,2,3など）です。ヒットがオフの時、文字列の場所の表示は空白のままです。

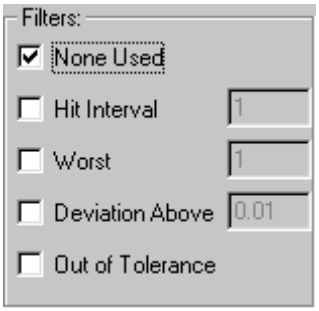
グラフィックス オプション



グラフィックオプションエリアはグラフィック表示ウィンドウに背景色と表示された現在寸法情報ボックスを定義できます。PC-DMISが寸法情報ボックスのまわりに覆う境界を表示するかどうかを定義できます。

寸法情報ボックスのグラフィックオプションを変更するには、このエリアから目的のオプションを選択して**作成**または**OK**をクリックします。

また、新規に作成された測定寸法情報ボックス用のデフォルト グラフィックス オプションを設定することもできます。これを行うには、目的のオプションを選択し、**寸法情報形式**エリアから**デフォルト**ボタンをクリックします。



フィルター エリア

フィルターエリアでは、個々のポイントに関する情報表示の際に使用される、フィルター オプションを設定することができます。

未使用 - これは、どんなフィルタリングも`POINTINFO`コマンドに使用しないようにPC-DMISに命じます。すべて選択されたヒットが`POINTINFO` コマンドで表示されます。

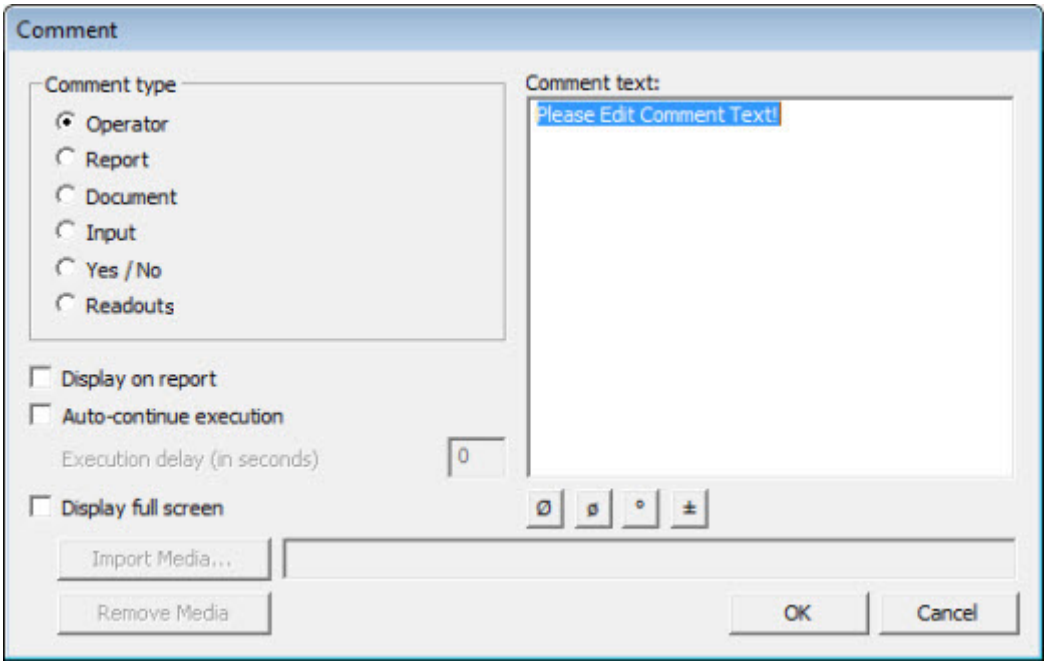
ヒット間隔 - このオプションはその右側のボックスの整数値をチェックし、`POINTINFO` コマンドで選択した特定のヒット間隔を表示します。たとえば、2が選択された場合、全部の二番目のヒットが表示され、3の場合、全部の三番目のヒット、4の場合、全部の四番目のヒットなどです。

最悪 -
このオプションはその右側に整数値チェックボックスをチェックし、寸法の最悪の偏差を与えるヒットのみを表示します。たとえば、ボックスに3を入力する場合、 `POINTINFO` コマンドは3つの最悪の偏差を表示します。

上記偏差 -
これは、右側のボックスに整数値をチェックし、寸法の最悪偏差を与えるヒットだけを表示します。たとえば、ボックスに3を入力する場合、 `POINTINFO` コマンドは3つの最悪の偏差を表示します。

公差外れ -
このオプションは、公差外れの偏差を持つヒットのみを表示します。（測定結果に関係なく）要素に関連するヒットについては、**[設定オプション]**ダイアログ ボックス
の**[一般]**タブにある**[偏差公差の表示]**
より大きな偏差をもつヒットのみが表示されます。（「優先設定」の項の「偏差公差の表示」を参照してください。)

プログラマーのコメント挿入



「コメント」ダイアログ ボックス

[挿入 | レポートコマンド | コメント]メニューオプションを使用して、オペレータの注、説明、またはサポートするメディアファイルを編集ウィンドウに追加でき、測定ルーチンが実行されたときや検査レポートが印刷されたときに表示することができます。コメントのテキストの長さに制限はありません;
ただし、コマンドモードで255文字が1行に適合します。テキストが、編集ウィンドウの右側に達する場合、Enterキーを押します。(これは全体のテキストが**コメントテキスト**ボックスに表示されます）新しいラインを作成するには、**コメントテキスト**ボックスの目的の場所にカーソルを置き、ENTER キーを押します。

コメントの入力

コマンドモードで編集ウィンドウにコメントを入力することもできます。COMMENTと入力し、キーボードでTABキーを押してOPERATOR、REPORTなど、目的のコメントの型を入力してください。TABキーを押してコマンドを承認するか、コメントテキストを含むフィールドに移動します。

重要: コマンドモードで編集ウィンドウに直接コメントをテキスト入力する場合、PC-DMISは最初に押した改行キーをコメントの追加のテキスト行を解釈します。コメントの後に新規のコマンドを入力したい場合、コメントテキストの最後で改行キーを*2回*押してください。

コメントの文字列の変数の使用

既存のコメント文字列に変数を結びつけたい、または、付け加えたい、とします。これを行うには、2つの方法があります。最初にENTERを押し、以下のように新しいコメントラインの変数を入力します:

```
C1 =COMMENT/INPUT,NO,Full Screen=YES,Auto-Continue=NO,
```

変数を入力してください

```
ASSIGN/V1=C1.INPUT
```

```
COMMENT/OPER,NO,Full Screen=YES,Auto-Continue=NO,
```

あなたのV1 変数は

V1です

第二に、以下のようにして、変数でない文字列を引用符で囲み、プラスサイン演算子を用いて変数を文字列に付け加えることで、変数とコメント文字列を同じ行に配置することが可能です:

```
COMMENT/OPER,NO,Full Screen=YES,Auto-Continue=NO,
```

"あなたのV1 変数は" + V1

コメント色の変更

コメントの詳細を目立たせることができます。コメントの色を変更してこれを行うことができます。

- 編集ウィンドウにそれらを変更するために、「編集ウィンドウの配色を定義」を参照してください。
- レポートウィンドウに表示されるコメントの色を変更するには**TextReportObject** レポートテンプレートエディタの色プロパティを変更します。

ヒント:報告書でコメントの色を変更する異なる方法はコメントテキストの前に、以下の特別な接頭辞を直接挿入することです:

```
~~#
```

これはこのコメントでマークされたかマークされないステップモードに定義されたテキスト配色を使用して、また**ウィンドウ色の編集**ダイアログ
ボックスにエラー検索に使用します。

#に１，２，３か４を入力できます；これら4つの数字はマークされたかマークされないステップモードまたエラー配色にを当てはめます。

テキストの色をエラーに割り当てられていくつかのコメントテキストを表示する場合は、コマンドはこのようになります：

```
COMMENT/rept, ~~4 一部のコメントテキスト
```

オペレーター

Operator

ソフトウェアがコメント・コマンドを実行する場合、**オペレータ**オプションは、オペレータにコメント文字列を表示します。

演算子 オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスで、**オペレータ**のオプションを選択します。
4. **[コメントテキスト]**ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

   このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

   ```
   COMMENT/OPER,TOG1,FULL SCREEN=TOG2,AUTO-CONTINUE=TOG3,
   comment text
   ```

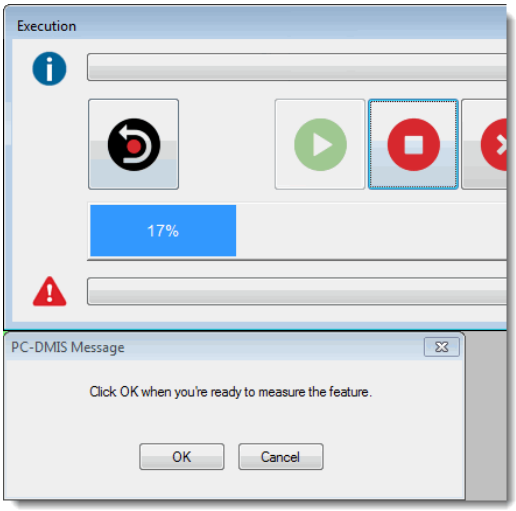
   TOG1 - このはい/いいえ
   フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 -
このYES/NOフィールドはコメントが表示されて全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを定義できます。

TOG3 -
このはい/いいえフィールドはコメントがカウントダウンタイマーを使用するかどうかを定義し、タイマーが0に達する場合には自動的に実行を継続します。カウントダウンタイマーが0に達する場合には、**OK** ボタンをクリックしたように、PC-DMISが継続します。

機能の仕方

PC-DMISが測定ルーチンを実行する場合、**実行**
ダイアログの下にメッセージボックスが適切なコメントが表示されます。



「PC-DMISのメッセージ」ダイアログ ボックスのサンプル

PC-DMISでは、このメッセージを編集することはできません。**OK**
ボタンをクリックして実行を継続します。測定ルーチン実行をキャンセルするには**[キャンセル]**をクリックします。

レポート

レポートオプションは、検査レポートにテキストを送信します。

レポート オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。

2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。

3. **コメント**のダイアログボックスで、**レポート**のオプションを選択します。

4. **[コメントテキスト]**ボックスに、コメントテキストを入力します。

5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

PC-DMISの測定ルーチンを実行する時には、これらのメッセージは表示されません。しかし、PC-DMISは、印刷時に、これらのコメントをインスペクション レポートに送付します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

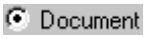
```
COMMENT/REPT
,comment text
```

注記: ダッシュ記号（または、他の活字）がインスペクション
レポートにおいて、テキストの下に編入される必要がある場合、追加の行を作るために、第二のコメント行を用いて下さい。
たとえば:

```
COMMENT/REPT,

検査レポートのコメント

COMMENT/REPT,

-----------------------------------
```

この一連のコマンド行は、検査レポート内に、検査レポートのコメント行を作成します。

記述



ドキュメントオプションはテキストを内部測定ルーチンに追加します。そのただ一つの使用はプログラマノートを格納することです。それは、検査レポートに現われません(もし、レポート中の表示をマークしなければ)。また、実行された時、それは何も表示しません。

ドキュメントオプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。

2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。

3. **コメント**のダイアログボックスで、**ドキュメント**のオプションを選択します。

4. **[コメントテキスト]**ボックスに、コメントテキストを入力します。

5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
$$ TOG1,
コマンドのテキストを編集してください。！
```

TOG1 = このはい/いいえ
フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

注記: 測定ルーチンが（おそらくPC-DMISの新しいバージョンから）支援されていないコマンドを含んでいない場合、測定ルーチンを開いたときに、 PC-DMISはこのコメントタイプに変換します。詳しくは「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「名前を付けて保存」を参照して下さい。

入力

インプット オプションは「演算子」に類似しており、これを用いると、測定ルーチンが実行されり時にテキストを表示します。以前に入力されたテキストに伴うメッセージ ボックスの表示に加えて、コメントボックスをも表示します。これにより、インスペクション レポートに記入する、*数値*情報を入力することができます。

このオプションは、測定ルーチンの実行中に、パーツ番号、または、通し番号を入力する場合、大変役に立ちます。

インプット オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。

2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。

3. **コメント**のダイアログボックスで、**入力**のオプションを選択します。
4. **[コメントテキスト]**ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

   このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:
   ```
   comment ID = COMMENT/INPUT, TOG1,Full Screen=TOG2,
   comment text
   ```

   TOG1 = このはい/いいえ
   フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

   TOG2 = このはい/いいえ
   フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを指定できます。

入力がコマンドの左側に指定された変数に割り当てられます。この変数は文字列型に強制的に変換されます。その後、<COMMENT ID>.INPUTというシンタックスを用いることにより、この変数は式が許容されるところであればどこでも、使用が可能です。
例えば、コメントIDがC１の場合、以下のようにこの変数を別の変数へ引き渡すことが可能です：

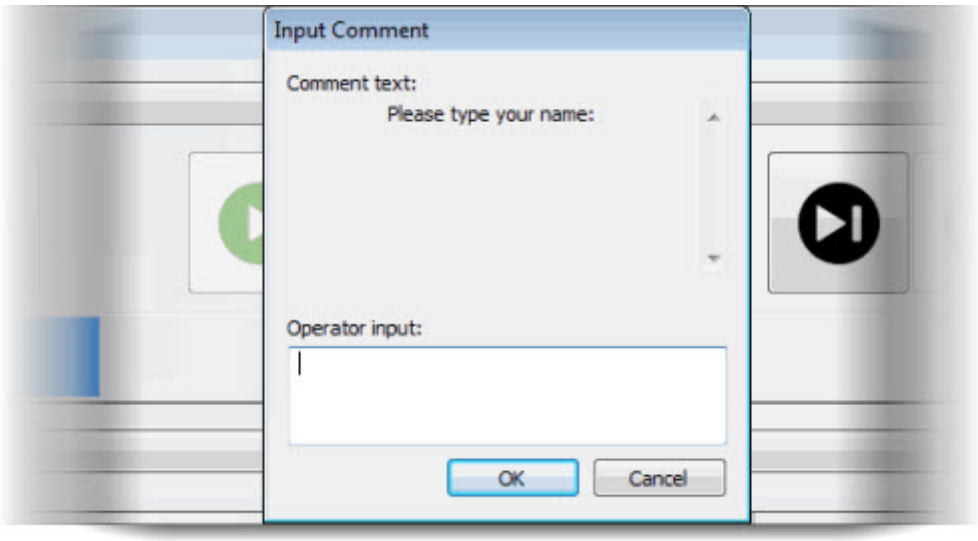
```
C1 = COMMENT/INPUT,NO,Full Screen=NO,
```

「氏名を入力して下さい:」

```
ASSIGN/V1=C1.INPUT
```

機能の仕方

実行中に、このメッセージボックスは必要な番号(シリアル番号など)を入力するプロンプトを表示し、その後、検査レポートにこの値が表示されます。このプロンプトは**実行**ダイアログボックスのトップに表示されます:



「コメント入力」ダイアログ ボックスのサンプル

作業者が自分のテキストを入力して、**OK**をクリックすると、 PC-DMISはコメント変数にそれを格納します。変数は、ID.INPUT（デフォルトで変数のIDはC1（最初の入力コメント）、C2（2番目の入力コメント）などです）。作業者が**[キャンセル]**をクリックした場合、実行が停止されます。

はい / いいえ

Yes / No

はい / いいえオプションはオペレータオプションのように機能しており、これを用いると、測定ルーチンが実行されている時にテキストを表示します。さらに、**YES** と **NO**ボタンは簡単な質問にはいまたはいいえを答える操作できるダイアログボックスの底部に表示されます。

はい/ いいえ オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスから、**はい / いいえ**のオプションを選択します。
4. **[コメントテキスト]**ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:
`comment ID = COMMENT/YESNO,TOG1,FULL SCREEN=TOG2,AUTO-CONTINUE=TOG3,`

コメント テキスト

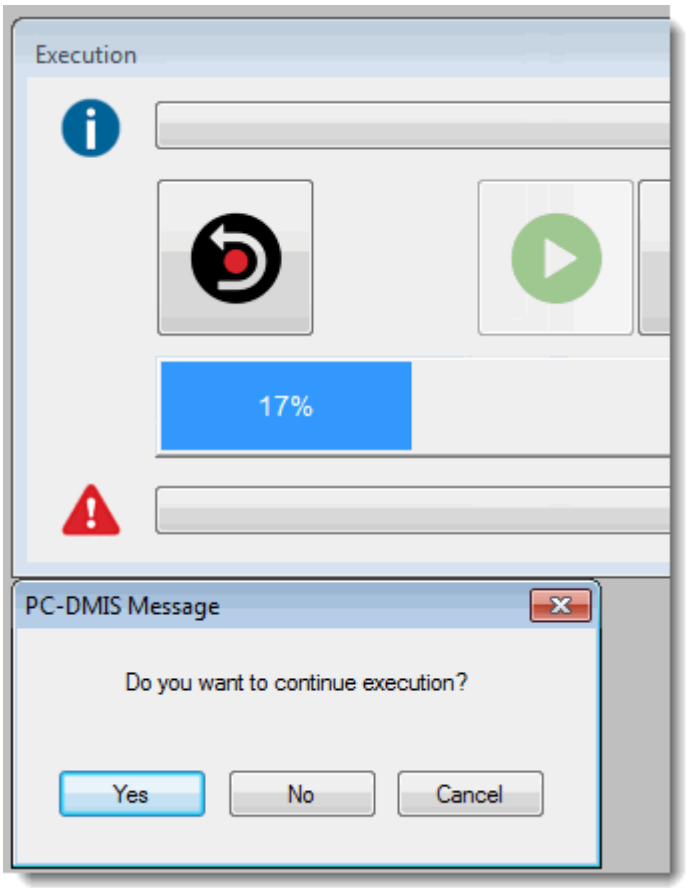
TOG1 = このYES/NO
フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 = このYES/NO
フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを指定できます。

TOG3 -
このはい/いいえフィールドはコメントがカウントダウンタイマーを使用するかどうかを定義し、タイマーが0に達する場合には自動的に実行を継続します。タイム0が達してクリックされないボタンの場合、測定ルーチンの実行は**No**
ボタンがクリックされた推定で継続します。

機能の仕方

実行中に、 **PC-DMIS メッセージ** ダイアログ ボックスが**実行**ダイアログ
ボックスの下に表示され、演算子が**はい**、**いいえ**または**キャンセル**を選択できます:



「はい」と「いいえ」を表示する、「PC-DMISのメッセージ」ダイアログのサンプル

オペレータがボタンをクリックするまで実行が一時停止します。答えは変数に格納されます。変数がC1.INPUTです。

オペレーターが選択した答えには、そのコメントのIDを伴う式を用いて、アクセスすることができます。

例
1:コメントはC1のIDを持ち、**Yes**ボタンがクリックされた場合、式「C1.INPUT」は「YES」の値を含みます。**いいえ**
ボタンがクリックされた場合、式「C1.INPUT」は「NO」の値を持ちます。このオプションは、ユーザーが「YES」か「NO」の答えにおいて、分枝、または、ループを行いたい場合、役に立ちます。

例
2:コメントはC1のIDを持ち、**Yes**ボタンがクリックされた場合、「C1.INPUTVALUE」式は「１」の値を含みます。**No**
ボタンがクリックされた場合、「C1.INPUTVALUE」式は「２」の値を持ちます。このオプション

は、ユーザーが「1」か「2」の答えにおいて、分枝、または、ループを行いたい場合に役に立ちます。

どの場合にも、オペレータが**[キャンセル]**をクリックすると測定ルーチンの実行がキャンセルされます。

重要: INPUT式を使って「YES / NO」コメントの値をテストするために条件分枝ステートメントを使用する場合、そのテストは大文字の「YES」、または、「NO」を検索します。小文字の「yes」、または、「no」では機能しません。(測定ルーチンの分岐に関する情報は、「フローコントロールを使用した分岐」の章を参照してください。)

測定値

測定値
オプションはプローブ測定値ウィンドウの下部にコメントテキストを表示します。この作業のため、**プローブ測定値セットアップ**ダイアログ ボックスに**プロンプト履歴を表示**チェックボックスを選択する必要があります。

測定値 オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「**挿入 | レポートコマンド|コメント**」メニューオプションを選択して、**コメント**ダイアログボックスを開き、。
3. **コメント**のダイアログボックスから、**入力**のオプションを選択します。
4. **[コメントテキスト]**ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. **[OK]**ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

   このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:
   ```
   COMMENT/READOUTS,TOG1,
   comment text
   ```

   TOG1 = このはい/いいえ
   フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

オプションの設定の多くな情報について、「カスタム設定」章の「計測値ウィンドウの設定」を参照してください。

プローブ測定値ウィンドウ上の使用に関する説明については、「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」の章にある「プローブ測定値ウィンドウの使用」を参照して下さい。

ﾚﾎﾟｰﾄの表示

☑ Display On Report

このチェックボックスはレポートウィンドウで生成した最終報告書にコメントと任意の送信されたテキスト(例えば、オペレータのコメントの使用など)が表示されるかどうかを定義します。選択した場合、レポートにコメントを表示するかどうかを指定するコメントのYES/NO
トグルフィールドははいに設定されます。

レポート コマンドのタイプを選択する場合、このチェックボックスは隠されます。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/TOG1,TOG2,
comment text
```

TOG1 = レポート以外の任意のコメントタイプ。

TOG2 = TOG2 = このはい/いいえ
フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

自動的に実行を継続

☐ Auto-continue execution
Execution delay (in seconds) 0

自動的に実行を継続: このチェックボックスでは、実行中にPC-DMISが表示されるコメントが指定の秒だけ経過した後に閉じるかどうかを定義できます。コンピュータの近くではない測定装置を使用している場合、オペレータは、この便利さを見つけることができます。それらが一定の時間後に継続したい場合に、それらが実行しようとします。このチェックボックスをオンにすると**[指定秒間実行を遅延]**ボックスが有効になります。

指定秒間実行を遅延:
このボックスではコメントが表示されている間、何秒間実行を遅延するかを指定できます。0より大きく 600より小さい値を秒で指定できます。

- 動画ファイルで実行遅延を使用し、動画の再生時間が遅延時間を超える場合、PC-DMISは続行する前に動画の再生が終了するのを待機します。
- 動画時間が指定した実行遅延時間より短い場合、実行遅延がゼロへカウントダウンするまでコメントが表示されたままになります。

実行中、カウントダウンタイマーが括弧の付いたオペレータコメントタイプの**OK**ボタンに表示されます。

[はい/いいえ] コメントタイプが[はい] ボタンに表示されます。

それがゼロに達すると、オペレータが**OK**をクリックしましたかのように、オペレータコメントの実行が継続されます。はい/いいえコメントの場合、オペレータは[いいえ]ボタンがクリックされていないかのように、実行が継続されます。

全画面表示

このチェックボックスは、コマンドが実行されれば全画面を満たす拡大サイズにコメントテキストを表示するかどうかを判定します。これは入力、はい / いいえ、また演算子
コメントで作業します。ユーザが他のコメント・タイプを選択すれば、PC-DMISはこのチェックボックスを無効にします。同様に、このチェックボックスがマークされた場合、表示されるコメント内の特定のメディア（画像や映画）を表示するオプションがあります。その場合には、**メディアのインポート** と**メディアの移動**
が有効になります。それらのボタンの情報については、「メディアのインポート」か、または「メディアを削除」を参照してください。

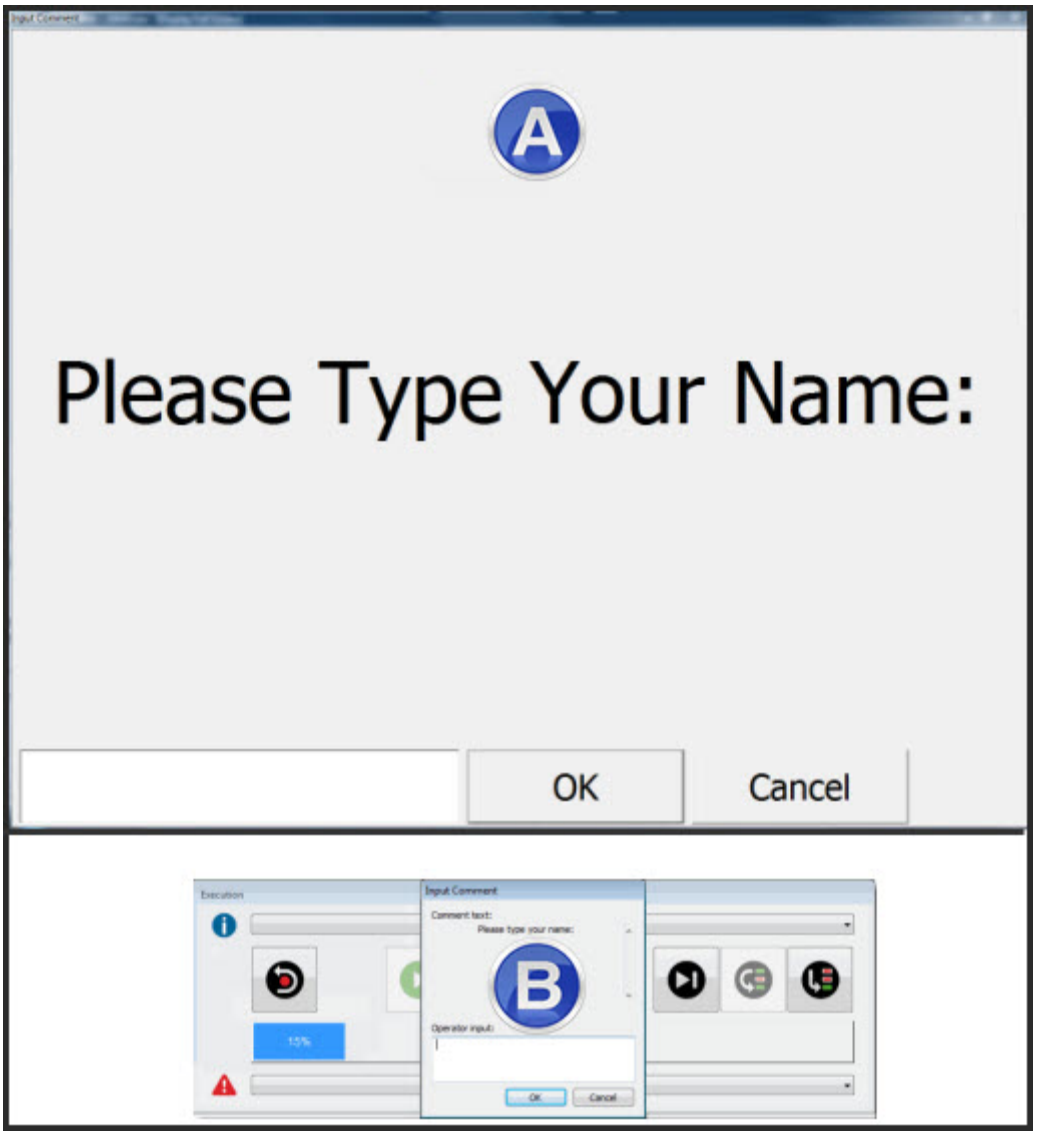
このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/TOG1,TOG2,Full Screen=TOG3,
comment text
```

TOG1 = INPUT, YESNO または**OPERATOR** コマンドです。

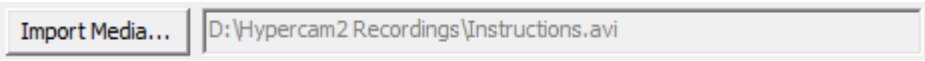
TOG2 = このはい/いいえ
フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG3 = このはい/いいえ
フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを指定できます。



サンプル画像はフルスクリーン入力コメント（A）と通常のサイズのコメント（B）を並んで比較するのを表示します。

メディアのインポート



全画面表示 チェックボックスを一回目にマークする場合、このボタンは有効になります。

測定ルーチンがこのコメントを実行すると、**インポートメディア**
ボタンは有効なメディアファイルを参照して測定ルーチンにそのファイルをインポート
してフルスクリーンのコメント内に表示されます。**OK**

をクリックする場合、このファイルは測定ルーチンに*インポートされて*
また測定ルーチンの*コンポーネント*
になります。ユーザが他のコンピュータ･システムまたはディレクトリに移動するときに測定ルーチンで画像やビデオファイルを移動するために覚えておく必要がないので、これはそれを作ります。しかし、ユーザが含めるように選択したメディア・ファイルのタイプと数に応じて、それは測定ルーチンサイズを全く大きくすることもできます。

選択されたファイルがボックスに**メディアのインポート** ボタンの右側に表示します。

有効なイメージファイルの種類は以下のようです：

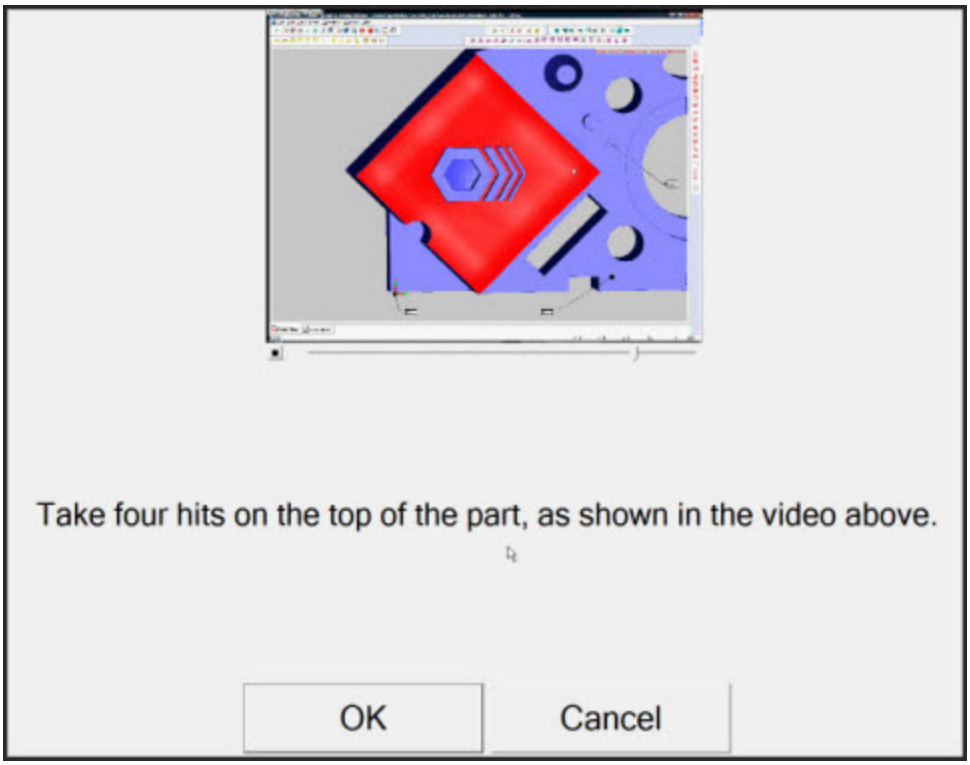
- .bmp
- .png
- .jpg

有効な移動ファイルの種類は以下のようです：

- .avi

メディアコンテナについて

PC-DMISはメディアファイルを含むコメントを実行する場合、ひとつのコメントが
メディアファイルを含むコメントを実行し、それは「コンテナ」というフルスクリーンのコメント内の部分に適当することに表示されたメディアをサイズします。これは、PC-DMISがコンテナ内に収まるように選ばれた画像やムービーのサイズを選択することを意味します。



このサイズの画像がフルスクリーンオペレータのコメントを表示します。コメントの上部にあるメディアコンテナがコンテナ内に適用した映画のサイズが含まれます。

コンテナ下の水平スライダがロードムービーファイルの現在のプロセスを表示します。このスライドをドラッグしてムービーのタイムラインによってさまざまなスポットにジャンプします。

このアイコンは再生からムービーファイルを停止します。

このアイコンが停止されたムービーファイルを再生します。

メディアの削除

Remove Media

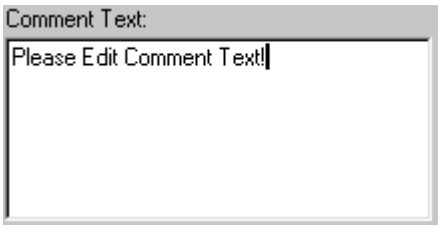
全画面表示 チェックボックスを一回目にマークする場合、これは有効になります。

メディアを移動

ボタンがコメントからメディアを移動します。これが測定ツーチンからメディアを移動したら、Windowsファイルシステムの制限の原因を注意してメディアをインポートする前にそれが

本来です。これらのケースでは、 **ファイル| 名前を付けて保存**
をしてその原件ファイルサイズで測定ルーチンを得るために異なるファイル名に測定ルーチンを保存します。

コメント テキスト



[コメントテキスト]
ボックスには、表示したいテキストが以下に示すようなコメント形式オプションで含まれています：

- オペレータ
- レポート
- 入力
- 文書
- はい/いいえ
- 読み取り

ASCII文字の挿入

ASCII文字ボタン・セット

コメントのダイアログボックス上のこれらのボタンは、
[コメントテキスト]ボックスにいくつかのよく使用されるASCII文字を挿入します。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

測定ルーチンに従来のレポート（HyperViewレポート）、レポートテンプレート、カスタムレポート、またはラベルのテンプレートを埋め込みます。PC-DMISは埋め込みコードを実行する場合、これはレポートまたはテンプレートを起動してそれを印刷、ビュー、また組み込みアイテムからか、またはそれへと値をパスすることができます。

重要: 旧式のレポートとはバージョン3.0、3.2、3.25、3.5、または3.7のPC-DMISでハイパービュー レポート
エディタを使用して作成されたレポートです。「レガシーのハイパービュー
レポートを使った作業」を参照してください。

レポートまたはテンプレートを埋め込むには：

1. 編集ウインドウがコマンドコードにあるのを確認してください。
2. **[挿入 | レポート コマンド]**を選択して、次のメニュー項目より目的のものを選択します。
   - カスタムレポート
   - テンプレートレポート
   - レガシー レポート
   - レポートラベル

   ダイアログ ボックスが表示してレポートまたはテンプレートを選択できます。
3. 測定ルーチンに埋め込みたいレポートとテンプレートを選択してください。
4. **開く** ボタンをクリックしてこのコマンドを挿入してください。

PC-DMIS は次のコマンドの一つをカーソル位置の編集ウィンドウに挿入します：

- `REPORT/CUSTOM`
- `REPORT/TEMPLATE`
- `REPORT/LEGACY`
- `REPORT/LABEL`

REPORT コマンド

レポートコマンドオブジェクトは編集ウィンドウの `REPORT` コマンドで識別されます。

REPORT コマンド構文

コマンド モードの編集ウィンドウでは、REPORTコマンドの構文は次の通りです:

```
<ID> =REPORT/<TOG1>, FILENAME= <PATHWAY>, AUTOPRINT=<TOG2>, INLINE
REPORT=<TOG3>, Section=<NUM1>,REPORTMODE=<MODE>

PARAM/=
```

ENDREPORT/

<ID>
これはREPORT コマンドのIDです。

REPORT/<TOG1>
これはREPORTコマンドのタイプを変更します。これは、カスタム、レガシィ、テンプレートまたはラベルであることができます。

FILNAME=<PATHWAY>
これはレポートまたはテンプレートがロードにすることを定義します。<PATHWAY>は目的のファイルを指している完全なファイル名のパスです。ユーザが単に報告書かテンプレートの名前を使用すれば、PC-DMISはデフォルト報告のディレクトリーの中を見ます。

AUTOPRINT =<TOG2>
<TOG2>は、PRINT、PDF及びNOの間に切り替えることができます。それは単にREPORT/LEGACYコマンドに当てはまります。

AUTOPRINT=PRINT
に設定すると、ハイパービューレポートは、読み込みおよび実行が終了した時点でデフォルトのプリンタに印刷されます。レポートはプリント
ジョブがスプールされた直後に閉じられ、測定ルーチンの実行が再開します。

AUTOPRINT=PDF に設定すると、ハイパービュー レポートはPDF(Portable Document Format)形式で保存されます。次のルールが適用されます:

- 生成されたPDFファイルはレポートまたはテンプレートファイルベース名に数字のインデックスと拡張子が付いたものになります。
- 作成されたファイルも同じなディレクトリにレポートされたファイルとして位置されます。
- 生成されたファイル名が既存のファイルと同じ場合、一意のファイル名になるまでインデックスの値が自動的に大きくなります。

AUTOPRINT=NO に設定するとこのコマンドを実行中は何も印刷しません。

INLINE REPORT=<TOG3>
これは AUTOPRINT が PDF に設定されたレガシー (ハイパービュー)
レポートのみで使用されます。ハイパービューレポート情報を、レポートウィンドウから生成されたその他のデータとともにPFD出力形式で行に表示するかどうかを決定します

<TOG3> はONおよびOFFの間で切り替わります。

ON - このコマンドが実行され**レポート印刷オプション**ダイアログボックスが**上書き**、**自動**、または**追加**オプションによってPDFを自動生成すると、指定されたレガシー(ハイパービュー)レポートからのデータが、その他の通常のレポート出力と並んでPDFに表示されます。

プロンプトオプションが使用され、これがONに設定されている場合、複数のPDFが生成され、一つはハイパービューレポート用に、必要に応じて残りのレポートウィンドウの内容を含めるよう追加のPDFが生成されます。

OFF -
ハイパービューレポートからのデータが、ハイパービューレポートの名前に基づいてPDFファイルに現れます。これは**レポート印刷オプション**ダイアログボックスから生成されたPDFには含まれません。

このオプションは、ハイパービューコマンドのAUTOPRINTオプションより優先される点にご注意ください。

旧式のハイパービューレポートについての詳細は、「レガシー (ハイパービュー) レポートを使用した操作」を参照してください。

Section=<NUM>
<NUM>
レポートまたはテンプレートが挿入されるセクションを定義します。このアイテムはテンプレートにラベルを付けるために当てはまりません。

[-1]またはデフォルト
テンプレートのセクション数より多い値が入力された場合、レポートの最後に挿入されます。

REPORTMODE=<MODE>
測定ルーチンが実行される時には、デフォルトのレポートテンプレートが指定される場合、それはテンプレートデフォルトのレポートを使用してレポートの生成することを開始します。一旦REPORTコマンドに達したら、作成は指定されたレポートのモードに基づいて変更します：

<MODE> - はSWITCHまたはINSERTであることができます。このモードは単にREPORT/TEMPLATEコマンドに当てはまります。

SWITCH-
別の報告コマンドが検出されるまでまたは測定ルーチンを終了する時まで、これはレポートテンプレートを切り替えてこのコマンドの1つを使用します。

挿入-
これはこのコマンドのテンプレートを使用して以前に実行されたコマンドにレポートデータを作成します。レポートコマンドが終了した時には、 PC-DMISはテンプレートのデフォルトのレポートを使用してレポートデータの残りの部分を生成します。

PARAM/
PARAM/ オプションで、PC-DMIS式をレポートまたはレポートテンプレートの変数またはプロパティをマップできます。このオプションはREPORT/LABELコマンドに当てはまりません。

PARAM/ オプションの構文は:

`PARAM/{オブジェクトまたは変数名}={PC-DMISの式}`

例:
「NumBoltHoles」という名前のレポートにグローバル変数があるとします。次のPARAM/オプションは以下の様にPC-DMIS式をNumBoltHolesにマッピングします:
`PARAM/NumBoltHoles=360.0/angle`

エディタで変数を変更するとPC-DMISの変数も変更されます。

例:
以下のPARAM/オプションを使用し、NumBoltHolesはnumBoltsに等しく設定されます。HyperView レポート内をHyperView 変数へ変更してNumBoltHolesはPC-DMIS変数numBoltsに反映されます: `PARAM/NumBoltHoles=numBolts`

重要: 実行後、レポート テンプレートまたはハイパービューレポートにパラメータをパスして変更されたすべてのオブジェクトは、何らかの方法でレポートを再描画して変更する場合には実行する前に戻ります。これは、パラメータをテンプレートまたはレポートに引き渡した結果を保持したい場合、レポートを変更する前に印刷する必要があることを意味します。このためには、AUTOPRINTパラメータを使用するか、レポート ウィンドウから直接印刷します。

詳しくはPARAMコマンドを使用して、PC-DMISの式をオブジェクトプロパティへマップングするを参照してください。

ヒント: `REPORT/CUSTOM` コマンドでF9を押してカスタム レポート エディタ のカスタムレポートを開きます。

REPORT/TEMPLATE レポートの生成

このコマンドに到達するまでは、通常通りデフォルトのレポートが生成されます。このコマンドが実行されると、特別なテンプレートを使用して、現在のレポート内の新しいセクションに全ての測定ルーチンのコマンドとは切り離されたレポートが作成されます。PC-DMISが新しいレポートセクションを作成した後、その点から前方元のレポートにそれは前のレポートに切り替わり、コマンドを生成するのを継続します。

PARAMコマンドを使用して、PC-DMISの式をオブジェクトプロパティへマップングすること

PC-DMISの式は、編集ウィンドウのPARAM/コマンドを使用してプロパティオブジェクトにマッピングすることが可能です。オブジェクトのプロパティをマッピングするためのPC-DMIS式の構文は次の通りです:

PARAM/{object code}.{property name}={PC-DMIS expression}

例: 以下のPARAM/ オプションはオブジェクトのBorderStyleプロパティを変更します、Text1:
`PARAM/Text1.BorderStyle=1`

外部オブジェクトの挿入

レポートに外部オブジェクトを追加するには、 **挿入| レポートコマンド| 外部オブジェクト**メニュー項目を選択します。もっと詳しい説明は、「「外部要素の追加」章を参照してください。

印刷コマンドの挿入

`PRINT/REPORT`コマンドは、マークされて、実行された時、その点に定義された出力目的地(プリンタまたはファイル)へ測定結果を送ります。PC-DMISがこのコマンドを実行した後に、それがレポートウィンドウの内容をクリアしてまた唯一の測定結果のみはレポートウィンドウに表示されます。しかし、常に**レポート**ツールバーの**レポートモードを表示**アイコン をクリックしてレポートを完全表示できます。

編集ウィンドウ内で`PRINT/REPORT` コマンドを挿入するには：

1. 編集ウィンドウを開いて下さい (**ビュー | 編集ウィンドウ**)。
2. **[編集ウィンドウ]**のツールバーより、**[コマンドモード]**アイコンをクリックし、編集ウィンドウをコマンドモードにします。
3. **挿入| レポートコマンド| 印刷コマンド**メニューオプション(または目的の場所で印刷を入力してTABを押します)を選択します。PC-DMIS は設定できるそれぞれのオプションを備えた`PRINT/REPORT` コマンドを挿入します。

PRINT/REPORT
コマンドは測定ルーチンからのレポートの印刷のコントロールに使用されます。PC-DMISがこのコマンドを実行する場合、報告書は生成され、指定された出力目的地に送られます。

注記: ファイル| 印刷| レポート設定 メニューオプション(DMIS出力オプションの例外)
で利用可能になったすべてのオプションもこのコマンドに利用可能です。

一般的に編集ウィンドウの印刷の情報について、
「基本的なファイルオプションの使用」の章の「編集ウィンドウからの印刷」を参照してください
。

PRINT/REPORTコマンド用シンタックスの理解

コマンドのシンタックスは以下のようになります:

```
PRINT/REPORT,EXEC MODE=END,$
    TO_FILE=OFF,TOG1,$
    TO_PRINTER=OFF,COPIES=,$
    TO_DMIS_REPORT=OFF,FILE_OPTION=OVERWRITE,FILENAME=,$
    REPORT_THEORETICALS=ALL,REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS=YES,$
    TO_EXCEL_OUTPUT=OFF,
    PREVIOUS_RUNS=TOG3
```

EXEC MODE = DMISとPC-DMISは、レポート
データを異なる方法で管理するので、このオプションを選ぶと、当ソフトウェアが、どのように、いつ、レポート データをDMIS、及び、PC-DMIS出力ファイルに送付するか、コントロールすることができます。DMISでは、ルーチンが実行される
前に、最初に、出力ファイル名と他の印刷パラメータの定義が要求されます。一方、PC-DMISは、測定ルーチンが実行された *後まで*、レポート
データの送付先が決められるのを待ちます。このオプションを選ぶと、両方のフォーマットに対応できます。これには、2つの値のうち、 **冒頭**、または、
末尾のいずれかを選択することが必要です。

開始
それがルーチンのエンドまたはそのたのPRINT/REPORT
コマンドに出会いまたこれはPC-DMISに印刷を開始するのを指示します。DMIS

ファイルをインポートする場合、それは印刷レポートコマンドを持ち、それはその初期値として**START** を使用します。

末尾
これは、このPRINT/REPORTコマンド以前に、既に実行されたものすべてを印刷するよう、PC-DMISに指示します。レポート印刷コマンドを伴うDMISをインポートせず、かわりにPRINT/REPORTコマンドをPC-DMIS内から挿入すると、それは**END**を初期値として持ちます。

重要: お客様の測定ルーチンが、複数のPRINT/REPORTコマンドを含む場合、PC-DMISがそのいくつかのコマンドを印刷しない可能性があることに注意して下さい。例えば、最初のPRINT/REPORTコマンドが**END**を用い、そして、2番目のレポート印刷コマンドが**START**を用いる場合、PC-DMISは、その間のすべてを印刷するわけではありません。

また、PRINT/REPORTコマンドが **START** を使用しますが、直後のレポート印刷コマンドが**END**を使用する場合、最初のPRINT/REPORTコマンドが、印刷バッファを空にするので、2番目の印刷では、何も印刷されません。

TO_FILE=
このオプションを使用して印刷されたレポートがファイルに発送されるまたはされない(**ON**) または(**OFF**)のをインジケータします。

AUTO= このオプションを使用するとPC-DMISは自動的にレポートのファイル名を作成します。[**AUTO**]オプションが選択されると、このキーワードには例えばAUTO=10のように数値フィールドが後に続きます。作成されたファイル名は、当該の測定ルーチンと同様の名称に、数字インデックスと.RTF拡張子を加えたものになります。また、作成されたファイルは、測定ルーチンと同じディレクトリに置かれます。生成されたファイル名と同じ名前のファイルが存在する場合、[**AUTO**]は一意のファイル名が見つかるまでインデックスの値を増加します。

TOG1
ファイルに印刷する場合、この値はアクションをコントロールします。利用可能なオプションは **APPEND / AUTO / OVERWRITE / PROMPT**です。選択されるオプション次第で、異なる情報が表示される可能性があります。

OVERWRITE
指定されたファイル名にこのオプションを使用してレポート情報を上書きし

ます。**OVERWRITE**
オプションが選択された場合、たとえば、OVERWRITE=D:\REPORTS\FILE001.RTFのようにこのキーワードの後にはファイル名フィールドが続きます。完全パスの指定が必須です。それ以外の場合、PC-DMISは、測定ルーチンと同じディレクトリだと推測します。また、ファイルが既存しない場合、PRINT/REPORT
コマンドが実行された時点でそのファイルが作成されます。

APPEND
このオプションを使用して指定したファイル名にレポート情報を追加します。**APPEND**
オプションが選択された場合、たとえば、APPEND=D:\REPORTS\FILE001.RTFのように、このキーワードの後にはファイル名フィールドが続きます。完全パスの指定が必須です。それ以外の場合、PC-DMISは、測定ルーチンと同じディレクトリだと推測します。また、ファイルが既存しない場合、PRINT/REPORT
コマンドが実行された時点でそのファイルが作成されます。

プロンプト
このオプションを使用すると、「**名前を付けて保存**」ダイアログボックスが表示されて、オペレーターにレポート情報が記入されたファイル名を請求します。

TO_PRINTER=
このオプションを使用して印刷されたレポートがプリンターに発送されるまたはされない(**ON**) または(**OFF**)のをインジケータします。

COPIES =この値は、プリンタに送信するには、レポートのコピーの数を決定します。

TO_DMIS_REPORT= このオプションを選択すると、PC-DMISがレポートを**FILENAME**で指定された DMIS出力ファイル(.dmo)に送信するかどうかを決定できます。これは**オン**か、または、**オフ**のいずれかとなるかもしれません。

FILENAME=
このオプションを使用してDMIS出力ディレクトリの場所とファイル名を指定します。**TO_DMIS_REPORT** を**ON**に設定した場合、PC-DMISは指定したファイルにレポートデータを保存します。例えば、FILENAME=D:\PCDMISREPORTS\MYDMIS.DMOであれば、PC-DMISはドライブDのPCDMISREPORTSフォルダーのMYDMIS.DMOファイルに報告書データを保存します。

FILE_OPTION=
このオプションはDMISファイル出力のために次のファイルオプションを提供します:

APPEND
これは**DMIS**のエンドに**FILENAME**に指定されたファイルのレポートデータを追加します。

OVERWRITE
これは最新のレポートデータで **FILENAME**
に指定されたDMISファイルを上書きします。

INDEX
これは、**FILENAME**で指定したDMISファイル名の後に測定ルーチンの実行値を増加して追加します。例えば、`FILENAME=MYDMIS.DMO`の場合には、次の実行上で、ファイル名は1で増加して、mydmis001.dmo、mydmis002.dmo、mydmis003.dmoなどのようになり、**AUTO=**オプションに似ています。

REPORT_THEORETICALS= これは、PC-
DMISが、DMIS出力ファイル内の理論値をどのようにレポートするか、を指示します。

すべて
PC-
DMISは、測定値と共にすべての理論値を出力DMISファイルに出力します。

なし
理論値はレポートに記入されません。

IMPORT_SETTINGS
明らかに、元来のDMISファイルで出力された理論値のみが、レポートに出力されます。

REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS= これはwhether or not PC-
DMISが出力ファイルに測定した要素と関連付けられている公差一緒にを保持するかどうかを定義します。それは**はい** または**いいえ**をとります。

はい
DMIS レポートのファイルに、PC-
DMISは、測定結果を、要素自体に関連する各測定結果に対する公差の直前に書き込みます。要素が任意の公差と関連付けられていない場合には、PC-
DMISは何の出力は作成しません。

NO
DMIS レポートのファイルに、ただ今、要素が測定された際に、PC-

DMISは測定の実績を記録し、PC-
DMIS関連付けられた寸法を実行することの後ではありません。

TO_EXCEL_OUTPUT=これは、PC-
DMISがexcelファイルへ出力を送るかどうか判断します。それは**ON**か**OFF**のいずれかをとります。

オン
excelファイルは、この点に対して測定ルーチンのすべてのアイテムのために生成されます。

オフ
excelファイルはこの印刷コマンドによって生成されません。

Excelの出力オプションを修正せるには、このコマンドのF9キーを押して、**Excel**タブのオプションを変更します。

追加の注記:

- これがONに設定されましたが、測定ルーチンの「**出力設定**」ダイアログボックスは**Excel出力**チェックボックスがクリアされた場合、PC-
DMISは、この特定のコマンドのExcelを生成します。
- これが「OFF」に設定されますが、測定ルーチンの「**出力設定**」ダイアログボックスが**Excelの出力**]チェックボックスにマークをオンにしていされている場合は、
Excelファイルは、実行の最後に生成されます。
- これがONに設定されて、測定ルーチンの**出力の構成**ダイアログボックスの**Excel出力**チェックボックスもマークされている場合は、生成された2つの出力ファイル、それぞれに1つで終わることがあります。この場合、`PRINT/REPORT`コマンドに従う寸法は異なるファイルの中で生成されます。
- ループはexcel出力で支援されます。ループを通して「 `PRINT / REPORT`」コマンドを実行し、Excel出力が追加に設定される場合、それは、Excelファイル内の追加のワークシートなどの目次を生成します。
- Excel出力ファイル出力の小数点以下の桁数を変更するには、ユーザはただ`PRINT / REPORT`コマンドの前に`DISPLAYPRECISION`コマンドを挿入することができます。

PREVIOUS_RUNS= ループからの `PRINT/REPORT`
コマンドを使用する場合、このオプションは特に役割を果たします。要素が、単一の実行中に一度以上測定される場合、この要素の以前の測定データが保存されます。***TOG3***

を使用してPC-DMISに(**DELETE_INSTANCES**) を削除してまたは(**KEEP_INSTANCES**) 保存された測定データを保持ます。

PRINT/REPORTコマンドの編集

印刷オプションダイアログ ボックス内の、これらのオプションを編集するには、

1. PRINT/REPORT コマンドラインの上にカーソルを置きます。
2. [F9]を押します。
3. 必要に応じて、変更を行って下さい。
4. **[OK]** をクリックします。

PC-DMISが、これまでの変更内容に合うよう、そのコマンドを更新します。**レポート**メニューに直接に**印刷オプション**ダイアログボックスへのアクセスは異なったのを注意します。「**レポート**」メニューからダイアログボックスに直接アクセスすることは、「編集」ウィンドウに「PRINT/REPORT」コマンドを挿入し*ません*が、その代り、測定ルーチンの全面的な印刷のデフォルトをコントロールします。

注記: PRINT/REPORT コマンドは測定ルーチンに一回以上に使用される可能です。

注記: PRINT/REPORT コマンドは**印刷オプション**ダイアログボックスに含まれる情報の一意のインスタンスです。したがって、 **印刷オプション**ダイアログボックスから選択されて PRINT/REPORT コマンドを使用するオプションは任意のPRINT/REPORTコマンドに独立して、測定ルーチンが実行を終了した場合には印刷に影響します。

一般的に編集ウィンドウの印刷の情報について、「基本的なファイルオプションの使用」の章の「編集ウィンドウからの印刷」を参照してください。

書式供給コマンドの挿入

PC-DMIS は FORMFEED コマンドを編集ウィンドウに挿入できます。FORMFEED コマンドがマークして実行された場合、このコマンドで、レポートの印刷ページをプリンタから排出されるのをさせます。ファイルに印刷している場合、FORMFEED コマンドが影響ありません。

編集ウィンドウ内でFORMFEED コマンドを挿入するには：

1. 編集ウィンドウを開いて下さい (**ビュー | 編集ウィンドウ**)。

2. **編集ウィンドウ**ツール バーから**コマンド モード**アイコンをクリックして、PC-DMIS をコマンドモードに配置します。

3. **挿入| レポートコマンド|**
   フォームのフィードメニューオプション(または目的の場所で`FORMFEED`を入力してTABを押します)を選択します。PC-DMISは`FORMFEED` コマンドを表示します。

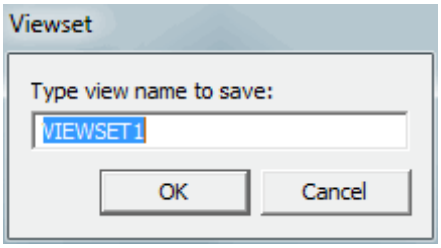
ビューセットの利用

さまざまなグラフィック表示のウィンドウ表示（「ビューセットと呼ばれる」）を作成して保存でき、後で測定ルーチンに挿入されるコマンドを使用してリコールすることができます。ビューセットはCADモデルのオリエンテーション、IDラベルの可視性と位置、およびシェーディングを保存します。**ビューセットの作成**メニューオプションで、測定ルーチンにビューセットの無制限な数を作成できます。ユーザが望まれているのと同じくらい頻繁に複数のビューセットを思い出すことができます。

ビューセットを作成するには:

1. 必要に応じてビューを設定します。**ビューセットアップ** ダイアログ ボックス (**編集 | グラフィカル表示ウインドウ | ビューの設定**)を使用してグラフィックの表示ウィンドウにパーツののズームと回転を変更することによってこれをできます。これを行う方法については、CAD表示の編集章の「画面ビューの設定」トピックを参照してください。

2. **挿入 | レポート命令 |**
   ビューセットの作成メニュー・オプションを選択するか、または**画像モード**ツールバーから、**ビューを作成**
   を選択します。保存するビューの名前を入力するプロンプト付きの小さな**ビューセット**ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスがVIEWSET1ではじめるデフォルトの名前を含み、後続の表示設定の番号をインクリメントします（VIEWSET2、VIEWSETなど）。



デフォルト名を伴う、「ビューセット」ダイアログ ボックス

3. ボックス内に、ご希望の画像用名称をタイプ入力して下さい(19字に制限)。

4. **OK** ボタンをクリックするか、または「Enter」キーを押してて下さい。
   `<NAME>=VIEWSET` コマンドを挿入してPC-DMISは現在のビューセットを選択した名と等しいのを設定します、<NAME>が定義されたビューセット名です。

ビューセットを呼び出すには:

作成されたビューセットをリコールするには、以下のいずれかの操作を行います：

- [設定]ツールバーから、**ビュー**一覧を選択します。
- PC-DMISポータブルの**QuickMeasure**ツールバーから、**ビューリをリコール**を選択します。

- メニューバーから、「**挿入|レポートコマンド|ビューセットをリコール**」を選択します。

呼び出すビューセットを選択します。これは、編集ウィンドウに`RECALL/VIEWSET,<NAME>`コマンドを挿入します。

カーソルが編集ウィンドウ内で`RECALL/VIEWSET,<NAME>`コマンド上、または、下にある場合、PC-DMISは、グラフィックス表示ウィンドウ内に作成されたビューセットを表示します。このコマンドをマークし、実行する場合、PC-DMISは、測定ルーチン実行中にも、グラフィックス表示ウィンドウ内に、保存された画像を表示します。

それに加え、レポート ウィンドウが、CadReportObjectを表示するテンプレートやカスタムレポートを使用している場合、呼び出されたビューセットは、お客様の最終レポート上に表示されます。レポート内のビューセットは、各RECALL/VIEWSETコマンドごとに、新しいページ上に表示されます。

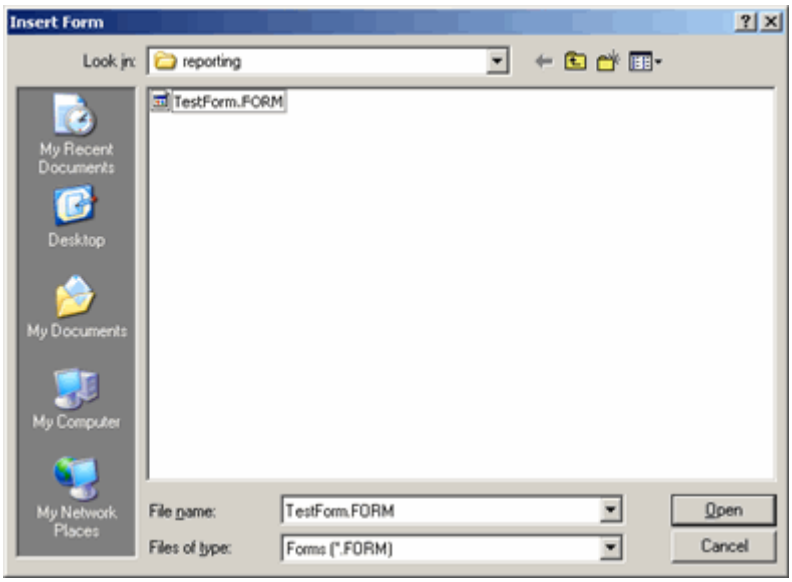
ビューセットを更新するには:

速めに既存ビューセットを変更できます。編集ウィンドウから、`RECALL/VIEWSET,<NAME>`コマンドを選択して、そのビューの必要に応じて、グラフィックスを表示するウィンドウを変更し、次に、**挿入| レポートコマンド| ビューセットを保存**メニューオプション（または**画像モード**ツールバーから**ビューセットを保存**アイコン)を選択します。

> **注記:**
> 新しいビューセットを作成せずに現在のビューセットを変更して保存したいだけには、代わりに**ビューセットを保存**メニューオプションを選択します。

書式コマンドの挿入

[挿入 | レポート コマンド | フォーム]メニュー項目を選ぶと、あらかじめ定義された.FORMファイルを、測定ルーチン内に挿入することができます。このメニュー項目を選択すると、**[フォームの挿入]** ダイアログボックスが表示されます。



フォーム挿入ダイアログ ボックス

.FORM ファイルへ移動し、それを選択し、**[開く]**をクリックします。PC-DMISが、編集ウィンドウ内に、以下に類似したFORM/FILENAMEコマンドを挿入します:

```
CS1=FORM/FILENAME= C:\PCDMIS40RELEASE\REPORTING\TESTFORM.FORM
    PARAM/=
    ENDFORM/
```

FILENAME = これは.FORMファイルのロードする場所を定義します。

PARAM/ - これは情報をフォームに送信します。例えば、`PARAM/Text1.Text = C1.INPUT` のPARAM/Text1を使用すると、コメントC1.INPUTの値を送信し、それをコントロールに送ることができます。

代わりに、 FORM を入力してTABを押して測定ルーチンにFORM/FILENAMEコマンドを挿入し、また手動でパスを入力して希望のフォームをロードします。

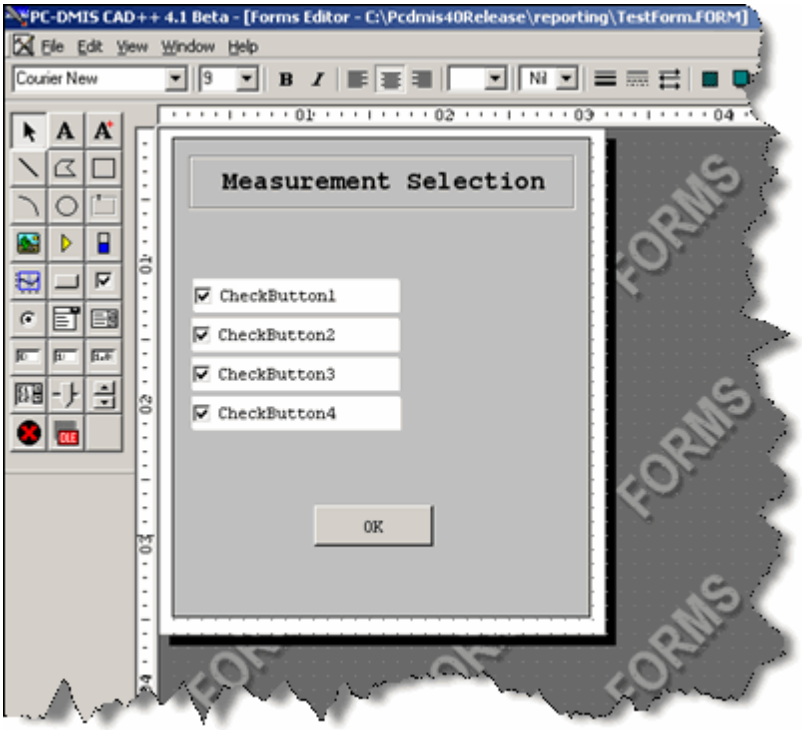
PC-DMIS がこのコマンドを実行する場合、それは定義されたフォームを機動し、すべての定義されたパラメータをフォームのコントローラにパスします。

書式と測定ルーチン間のコミュニケーション

ASSIGNとPARAMステートメントの組み合わせを使用して、フォームから値を渡すことができます。これで、フォームの測定ルーチンとの間に便利な双方向通信を設定できます。

ASSIGN ステートメント -
ASSIGNステートメントをフォームのコントロールの値を初期化することができます。これらのステートメントは、変数を作成でき、フォームを閉じた後に、フォームから更新された値を受け取ることができます。

たとえば、以下のように四つの名前のないチェックボックスがあるフォームを持つことを仮定します。



そこで、それらに名称と値を動的に与えるよう、測定ルーチンに指示します。編集ウィンドウでは、以下のようにASSIGN
ステートメントを使用してチェックボックスを名前を付けて、初期化します：

```
ASSIGN/CHECK1VALUE = 0

ASSIGN/CHECK1TEXT = "Point"

ASSIGN/CHECK2VALUE = 1

ASSIGN/CHECK2TEXT = "Line"

ASSIGN/CHECK3VALUE = 0
```

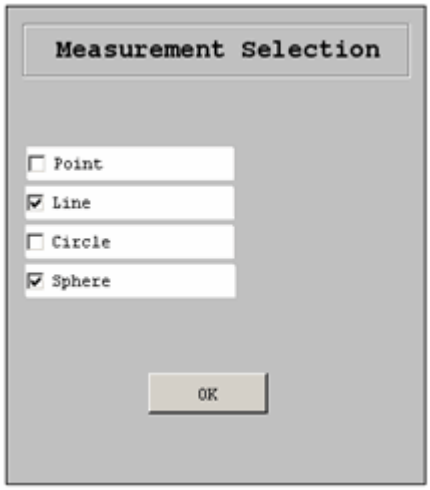
```
ASSIGN/CHECK3TEXT = "円"

ASSIGN/CHECK4VALUE = 1

ASSIGN/CHECK4TEXT = "球"
```

PARAM ステートメント -

今、あなたがいくつの変数を持ち、PARAMステートメントを使用して以下のように変数とフォーム自身の間の接続を確立できます：

```
CS1=FORM/FILENAME= C:\PCDMIS40RELEASE\REPORTING\TESTFORM.FORM

     PARAM/CHECKBUTTON1.VALUE=CHECK1VALUE

     PARAM/CHECKBUTTON1.TEXT=CHECK1TEXT

     PARAM/CHECKBUTTON2.VALUE=CHECK2VALUE

     PARAM/CHECKBUTTON2.TEXT=CHECK2TEXT

     PARAM/CHECKBUTTON3.VALUE=CHECK3VALUE

     PARAM/CHECKBUTTON3.TEXT=CHECK3TEXT

     PARAM/CHECKBUTTON4.VALUE=CHECK4VALUE

     PARAM/CHECKBUTTON4.TEXT=CHECK4TEXT

     PARAM/=

     ENDFORM/
```

書式が呼び出されると、CHECKBUTTON1にはチェックがなく、そのテキストラベルには「点」の表示があり、CHECKBUTTON2にはチェックがあり、そのテキストラベルには「直線」の表示があり、CHECKBUTTON3にはチェックがなく、そのテキストラベルには「円」の表示があり、CHECKBUTTON4にはチェックがあり、そのテキストラベルには「球」の表示があり、以下のようになります。



フォームがロードされた時、そのたにチェックボックスを選択してまたはクリアでき、フォームを閉じる場合、変数が最初にチェックされたチェックボックスの現在値を保持する状態(CHECK1VALUE, CHECK2VALUE, CHECK3VALUE とCHECK4VALUE) を設定します。

スクリーン キャプチャの挿入

挿入|レポート
コマンド|画面の取り込みメニュー・オプションはレポートに画面の取り込みを表示します。このメニューを選択して編集ウィンドウに`DISPLAY/METAFILE`を設定します。このコマンドがマークされて実行された場合に、PC-DMISは自動に画面の取り込みをリフレッシュして、レポートにそれを表示します。

編集ウィンドウ内のコマンドライン:
`DISPLAY/METAFILE,"___",TOG1,TOG2`

___ =
このフィールドには、キャプチャした画面の説明を入力できます。テキストは最大255字に制限されています。

TOG1 = このフィールドでは、スクリーンキャプチャーの品質が決定されます。以下のうちから、選択してトグル変更することができます: 25%、50%、 75%、100%及びスクリーンに適合。

TOG2 =
このフィールドでは、画面捕獲の品質が決定されます。以下のうちから、選択してトグル変更することができます: **高品質**、 **良品質**及び **低品質**

これをレポートウィンドウに表示するには、レポートウィンドウ内のいくつのテキストを右クリックし、**編集**を選択し、**レポート** ダイアログ ボックスが表示する場合、 **画面キャプチャを表示** チェックボックスを選択します。

このコマンドは分析ウィンドウで作成した ANALYSISVIEW コマンドとDISPLAY/METAFILE コマンドと同じです。分析ウィンドウのもっと多くな情報について、「レポートコマンドの挿入」項の「分析」を参照してください。

注記: グラフィック表示ウィンドウ内のテキストの**True Typeフォント**の使用はイメージをキャプチャする場合には最高結果を作成します。